

令和4年度保健科学部 理学療法学科 2学年 シラバス

応用数学	・・・P1～
人間関係論	・・・P3～
死生観	・・・P5～
社会福祉学	・・・P7～
英語ⅡA	・・・P9～
英語ⅡB	・・・P11～
病理学総論	・・・P13～
人間発達学	・・・P14～
運動学演習	・・・P16～
免疫学	・・・P18～
医用工学実験	・・・P20～
薬理学	・・・P22～
リハビリテーション医学	・・・P24～
整形外科学	・・・P26～
内科学	・・・P28～
精神医学	・・・P30～
脳・神経内科学	・・・P32～
老年学	・・・P34～
小児科学	・・・P36～
リハビリテーション栄養学	・・・P38～
放射線医学概論	・・・P40～
危機管理学	・・・P42～
医療統計学	・・・P44～
理学療法評価学Ⅰ	・・・P46～
理学療法評価学Ⅱ	・・・P48～
理学療法評価学演習	・・・P50～
運動療法学	・・・P52～
運動療法学演習	・・・P53～
物理療法学	・・・P54～
運動器障害理学療法学	・・・P55～
神経障害理学療法学	・・・P57～
日常生活動作分析援助学	・・・P59～
地域理学療法学	・・・P61～
臨床実習Ⅱ	・・・P62～

科目名	応用数学【保健2】	科目名(英語)	応用数学
区分	自然科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	柴田 恭子		
開講年次	2	教室	
必修/選択	必修:放射	授業形態	講義
受講要件	数学Ⅱを履修していること		
授業の概要			
<p>自然現象でも社会現象でも1つの要因によって説明できる現象は稀であり、多くの現象は複数の要因(変数)により生起する。したがって現象の記述のためには「多変数の微積分学」が必要となり、「偏微分」や「重積分」が定義される。複数要因の変化が動的に現象に影響を及ぼしているモデルを記述するツールとして「偏微分方程式」があり、「フーリエ変換」と「ラプラス変換」は偏微分方程式を解析するツールとなっている。特にフーリエ変換は、画像工学や保健学領域でも広く用いられ、例えばMRIやX線CTをはじめとする医用画像の画像再構成、画像解析、画像処理で重要な役割を果たしている。</p> <p>この授業では、最も基本的な2変数関数の偏微分と重積分を学んだ後、ラプラス変換とフーリエ変換について学習する。一部、画像工学での応用も視野に入れて学ぶ。履修にあたっては、数学Ⅰ、数学Ⅱを履修していること。</p>			
学習目標			
<p>(1) 偏微分を理解し、偏導関数を計算できる。</p> <p>(2) 合成関数の微分を計算できる。</p> <p>(3) 2重積分を用いて立体の体積を計算できる。</p> <p>(4) ラプラス変換の概念を理解し、基本的な計算ができる。</p> <p>(5) フーリエ変換の概念を理解し、基本的な計算ができる。</p> <p>(6) 画像工学におけるフーリエ変換の重要性や役割を説明できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4/14 3限	イントロダクション 偏微分:2変数関数と偏微分、偏導関数	町田好男
第2回	4/21 3限	合成関数の微分法、全微分	町田好男
第3回	4/28 3限	偏微分の応用	町田好男
第4回	5/19 3限	重積分:重積分の定義と累次積分	町田好男
第5回	5/19 4限	累次積分と順序交換、2重積分と座標変換	町田好男
第6回	5/26 3限	重積分の応用	町田好男
第7回	6/2 3限	ラプラス変換とその基本性質、逆ラプラス変換	町田好男
第8回	6/9 3限	ラプラス変換の応用例:常微分方程式での応用	町田好男
第9回	6/16 3限	フーリエ解析:フーリエ級数の定義と収束性	町田好男
第10回	6/23 3限	フーリエ正弦・余弦展開、周期関数のフーリエ級数	町田好男
第11回	6/30 3限	複素フーリエ級数	町田好男
第12回	7/7 3限	フーリエの積分公式とフーリエ変換	町田好男
第13回	7/14 3限	フーリエ変換の性質、たたみこみ	町田好男
第14回	7/21 3限	2次元フーリエ変換、離散フーリエ変換	町田好男
第15回	7/28 3限	まとめ	町田好男
テキスト	「新版 微分積分」岡本和夫、実務出版 「新版 応用数学」岡本和夫、実務出版 ※ 教科書にない一部の項目については別途資料を配布する		
参考書	「新版 応用数学演習」岡本和夫、実務出版		

	「新版 微分積分演習」岡本和夫、実務出版
成績の評価方法	試験の得点【65%】、平常点（演習課題の提出）【35%】により総合的に行う
その他	<p>（1）演習課題の提出により出席確認を行います。</p> <p>（2）下記のいずれかの項目に該当する場合は、定期試験および再試験の受験は認めません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な事由なく6回以上欠席した場合</li> <li>・毎回の課題演習などで代筆・カンニング等、不正行為が認められた場合</li> <li>・途中退室、私語が多いなど授業態度が悪い場合</li> </ul>

科目名	人間関係論【保健2】	科目名(英語)	人間関係論
区分	人文・社会科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	立柳聡		
開講年次	2	教室	講義室 1
必修/選択	理学・作業：必修 放射・臨床検査：選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
主として社会学、社会心理学、心理人類学の知見に拠りながら、人間関係について考察する基礎知識、並びに、日本人の人間関係の特色とそれを育んできた背景と考えられることについて探究します。			
学習目標			
一般目標； 社会・文化的な条件とその下に置かれた人間の心理や行動を、相関的に考察できるようになる。 行動目標； 1) 人間関係について考える上で基本となる概念や理論を理解できるようになる。 2) 日本人の人間関係の特色を理解できるようになる。 3) 子どもの社会化や発達と人間関係の相関について、原理的に理解できるようになる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		人間関係論の事はじめ—オリエンテーションと基礎知識の整理— 一定の社会・文化的条件とその下に置かれた人間の心理や行動との相関を考察していくに当たり、最も基本的でたいせつとみられる概念を、話題に即していくつか整理してみたいと思います。 あなたはお母さんとお父さんとどちらが一段と好きですか？どうして違いが生じるのだろう...	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第2回		家族の中の人間関係—亭主関白・友だち夫婦・かかあ天下の違いはなぜ起きる？その1— 日本人の社会の本質の一つは、家族本位制であると言われます。家族は日本人が何らかの集団を形成する場合のひな型であるとみられるわけですが、家族という集団の特色を考えてみます。すると、一見、宿命的な関係のようにみえる各家族員同士の人間関係も、丁寧にみると、つながりの強弱やいずれにイニシアチブがあるかなど、結構違いがあることがわかります。その背景を探ってみたいと思います。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第3回		家族の中の人間関係—亭主関白。友だち夫婦・かかあ天下の違いはなぜ起きる？その2— 第2回の続きを講じます。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第4回		家族の中の人間関係—亭主関白。友だち夫婦・かかあ天下の違いはなぜ起きる？その3— 第3回の続きを講じます。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第5回		子どもの育て方の違いと育ち方の違い—子どもの社会化と文化の相関・その1— 子どもの育ちは親や社会のあり方や関わり方から大きな影響を受けると言われています。日本人の子どもたちはどんな時期にどのような人間関係を経験し、社会化するのでしょうか。それは他の民族にも当てはまることでしょうか。考えてみたいと思います。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第6回		子どもの育て方の違いと育ち方の違い—子どもの社会化と文化の相関・その2— 第5回の続きを講じます。	立柳聡（総合科学教育研究センター）

第7回	子どもの発達を促す人間関係・その1 未来の担い手である子どもたちが健やかに育つ上でも、人間関係は重大な役割を担っています。どのような質を伴った子どもと大人との人間関係が、子どもの発達を促すのか。それを保障されることが子どもの権利の確信であるとも言われます。どうということなのか、お話をしたいと思います。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第8回	子どもの発達を促す人間関係・その2 第7回の続きを講じます。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第9回	人間関係づくりの不思議—偏見や差別はどのように生じるのだろうか？その1— 人間関係は、仲睦まじく深められていくとは限りません。人間関係づくりがうまく進まなくなったり、逆に壊れていく場合もあります。そこにはどんなからくりが潜んでいるのでしょうか。考えてみたいと思います。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第10回	人間関係づくりの不思議—偏見や差別はどのように生じるのだろうか？その2— 第9回の続きを講じます。 また、人間関係の特色を捉える社会調査の概要をご紹介しますと共に、方法を指導します。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第11回	日本人の人間関係の特色・その1—東日本と西日本に違いはあるか？前編— しばしば東日本と西日本の文化の違いが話題になりますが、人間関係なり、その網の目である社会のあり方にもそうした違いを見出すことはできるのでしょうか。違いあがるとしたら、それを生み出しているものは何なのでしょう。あなたは、県民性はあると思いますか？	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第12回	日本人の人間関係の特色・その1—東日本と西日本に違いはあるか？後編— 第11回の続きを講じます。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第13回	日本人の人間関係の特色・その2—日本人の人間関係づくりに特色を与えているもの・前編— 学史を振り返ってみると、様々な日本人論が、今回の項目のことを扱ってきました。「恩」、「義理」、「人情」、「甘え」、「仲間意識」など、有名なキーワードも多々生まれました。ことわざにも人間関係に関わるものが様々あります。例えば、そうしたものに注目すると、どんなことがみえてくるのでしょうか？考えてみよう。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第14回	日本人の人間関係の特色・その2—日本人の人間関係づくりに特色を与えているもの・後編— 第13回の続きを講じます。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
第15回	レポートの課題を発表し、データ分析の方法とグループワークの進め方を指導します。	立柳聡（総合科学教育研究センター）
テキスト	必要に応じ、順次、プリントを配布いたします。	
参考書	講義を踏まえ、適時、紹介していきます。	
成績の評価方法	1) 出席状況、フィードバックペーパーとレポートの内容、各種の減点によって、総合的に判定します。詳細は開講時に説明します。 2) レポートの再提出の機会は設けません。皆さんの運命を決する国家試験に再試験はありません。前哨戦と位置づけて、真剣勝負に挑む心構えを培うトレーニングと思ってほしいと期待です。 4) 万一不合格となった場合は、別途、タスクを課して鍛えます。その上でレポートを提出していただき、改めて合否判定を行います。	
その他	1) 命に向き合うに相応しい人間のあり方に常にこだわり、講座の運営に当たります。このため授業中の私語、中抜けなどの迷惑、不正行為に対して厳しく措置します。 2) できれば人間関係について考察する何らかの社会調査にも取り組んでみたいと思います。	

科目名	死生観【保健2】	科目名(英語)	死生観
区分	人文・社会科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	本多創史		
開講年次	2	教室	講義室 1
必修/選択	選択	授業形態	講義・討論
受講要件			
授業の概要			
<p>少子超高齢社会を迎えた日本では、いままでになかった勢いで様々な価値観（例えば、女性観、男性観、家族観、職業観、宗教観など）が変化しています。何か確固とした理想的な生き方といったものは見つけにくくなってきました。そのようななかで、人間の生や死についての関心はとて高まってきています。</p> <p>しかも、私たちは巨大な災害によって多くの人命が失われる事態に遭遇しました。「生きる意味とは何か、死とは何か」という問題を探求せざるをえなくなっています。死生観とは、人間の生と死をどのように把握し、どのようにこの問題と向き合うかといった考察です。古今東西の宗教や思想家がこの問題についてさまざまな考察を行いました。</p> <p>この授業では、そのような死生観をふりかえり、さまざまな角度からこのテーマについて考えます。生と死に向き合う医療職の営みにも参考になる授業を目指しています。</p>			
学習目標			
<p>【一般目標】 古今東西の宗教や思想の死生観を把握するとともに、その死生観の社会的歴史的背景についても理解し、さらに現代の「生と死」の問題とも関連させて考察する態度を身につける。</p> <p>【行動目標】</p> <p>1各宗教および思想家の死生観を文献資料や映像から把握することができる。</p> <p>2伝統的の死生観と現代人の死についての意識とを比較し、論じることができる。</p> <p>3死生観の考察を通して、自己の死生観を育むことができる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4/14 6限	導入 討論方法・レポート作成方法	末永恵子
第2回	4/21 6限	喪と追悼、死者と生者、葬送の意義	末永恵子
第3回	4/28 6限	死者とのつながり、看取り、葬儀、悲嘆	末永恵子
第4回	5/12 6限	異文化としての死生観 チベット仏教(1)	末永恵子
第5回	5/19 6限	異文化としての死生観 チベット仏教(2)	末永恵子
第6回	5/26 6限	死生観と宗教1 仏教(1) 原始仏教、輪廻転生	末永恵子
第7回	6/2 6限	死生観と宗教2 仏教(2) 日本への定着	末永恵子
第8回	6/9 6限	死生観と宗教3 儒教・道教 沈黙の宗教	末永恵子
第9回	6/16 6限	死生観と宗教4 神道(1) 魂の行方	末永恵子
第10回	6/23 6限	死生観と宗教5 神道(2) 死生観と国家	末永恵子
第11回	6/30 6限	死生観と宗教6 キリスト教(1) 旧約聖書	末永恵子

第12回	7/7 6限	死生観と宗教7 キリスト教(2) 新約聖書	末永恵子
第13回	7/14 6限	死生観と宗教8 イスラム教(1) 基礎知識	末永恵子
第14回	7/21 6限	死生観と宗教9 イスラム教(2) クルアーンの中の天国と地獄	末永恵子
第15回	7/28 6限	総括 まとめ	末永恵子
テキスト	授業時に配布する。		
参考書	以下を参考書とする。 1, 島蘭進ほか『死生学』1～5 東京大学出版会、2008年 2, 立川昭二『日本人の死生観』筑摩書房、1998年 3, 波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞社、2004年 4, 佐藤弘夫『死者の花嫁 葬送と追想の列島史』幻戯書房、2015年 5, 金菱清(ゼミナール)編『呼び覚まされる霊性の震災学—3・11 生と死のはざままで』新曜社、2016年		
成績の評価方法	ミニ・レポートの内容(75%)と授業への参画態度(25%)を総合し、成績を決定する。		
その他	死生観は生きていく間に他者(死者と生者)との関係をどのように構築していくかという課題を問いかけます。自分はどうやって他者とつながるのか、問いをもちつつ、他者理解・異文化理解を試みましょう。授業が積極的な議論の場となることを願っています。		

科目名	社会福祉学【保健2】	科目名(英語)	社会福祉学
区 分	人文・社会科学系	単位数	1.0
担当責任者	反町篤行(総合科学教育研究センター)		
開講年次	2	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
社会福祉の基本は、国民一人一人が抱える具体的な生活課題に対し、国民の生活と健康を保障するための支援にあたることである。本講では社会福祉の原理・原則・体制などの社会福祉原論と様々な福祉制度・システムと医療連携についてを学びます。			
学習目標			
1) 社会福祉の大枠を理解する。 2) 社会福祉の基本的な枠組み、法律および制度について理解する。 3) 社会福祉を推進させるための資源や様々な連携を理解する。 4) 生活者の福祉問題の現状と課題を理解する。 5) 社会福祉に関する事項を的確に整理することができ、自分なりの見解を記述することができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		現代と社会福祉 21世紀の福祉目標 現代社会の諸問題と人権思想 現代社会と社会福祉の潮流	柴田邦昭(柴田社会福祉事務所)
第2回		社会福祉の基礎理解 社会福祉とは 我が国における社会福祉概念 社会福祉の対象と目標 人権尊重に基づく福祉教育	柴田邦昭(柴田社会福祉事務所)
第3回		社会福祉の歴史 社会福祉の歴史を学ぶ意義 西洋における社会福祉の歴史 日本における社会福祉の歴史 社会福祉の現代史	柴田邦昭(柴田社会福祉事務所)
第4回		社会福祉の法律と制度 社会福祉の法制 社会福祉の機関 社会福祉の財源 社会福祉の従事者	柴田邦昭(柴田社会福祉事務所)
第5回		貧困と公的扶助 貧困問題と公的扶助 公的扶助の歴史 公的扶助の対策 生活保護の動向と課題	柴田邦昭(柴田社会福祉事務所)
第6回		子どもと家庭の福祉 子どもと家庭福祉とは 現代社会と児童問題 子ども家庭福祉対策 子ども家庭福祉の実施体制	柴田邦昭(柴田社会福祉事務所)
第7回		高齢者の福祉1 超高齢社会の到来 高齢者福祉制度の変遷	柴田邦昭(柴田社会福祉事務所)
第8回		高齢者の福祉2 介護保健制度 人材確保と専門性の向上 地域における取組	柴田邦昭(柴田社会福祉事務所)
第9回		障害者の福祉1	柴田邦昭(柴田社



		障害者福祉とは 障害のある人の生活ニーズ	会福祉事務所)
第10回		障害者の福祉2 障害者福祉の施策 障害者福祉に関する課題	柴田邦昭 (柴田社会福祉事務所)
第11回		ひとり親家庭の福祉・女性福祉 ひとり親家庭の福祉 女性の現状と女性福祉	柴田邦昭 (柴田社会福祉事務所)
第12回		社会福祉援助技術 援助技術を支える基本的 利用者への直接的援助技術 利用者への間接的援助技術 援助技術の今後の課題	柴田邦昭 (柴田社会福祉事務所)
第13回		地域福祉1 地域福祉の発展 地域福祉の具体的な活動	柴田邦昭 (柴田社会福祉事務所)
第14回		地域福祉2 地域福祉計画の策定と 住民参加	柴田邦昭 (柴田社会福祉事務所)
第15回		医療福祉 医療福祉とは 医療福祉における諸課題 医療ソーシャルワーカーの役割と援助方法	柴田邦昭 (柴田社会福祉事務所)
テキスト	改訂 社会福祉論 建帛社		
参考書	現代の社会福祉 建帛社 他適時指示します。		
成績の評価方法	試験により評価する		
その他	社会福祉を学ぶためには、人間や社会への深い認識や、広い視野を有すると同時に、社会福祉についての体系的・総合的な学びが求められます。さらには理論的な学びとともに、できるだけ人々の生活の現実や実態に触れることが大切です。そのような学びの中から、医療専門職として福祉領域との関係についてしっかりと学んでください。		

科目名	英語ⅡA【保健2】	科目名(英語)	英語ⅡA
区分	外国語科目	単位数	1.0
担当責任者	安田尚子		
開講年次	2	教室	ICT教室他
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>様々なトピックスを通して、英語の語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得し、医療人、また国際社会の一員として英語で情報伝達ができるよう、プレゼンテーションスキル等を習得する。またグループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、使えるproductive skills (speaking &amp; writing)の習得を目指す。この授業は4学科合同で、同一時間帯に3クラス編成で行われる。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な英単語や表現を正しく発音し、その意味が理解できる。</li> <li>2. 様々なジャンルの英文を理解することができる。</li> <li>3. 学術英語にふさわしい語彙、文法、文章構成を理解することができる。</li> <li>4. 地域に必要な医療情報を英語で提供することができる。</li> <li>5. 視覚情報や映像を用いて情報を英語で表現することができる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		Introduction	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第2回		教員ごとに内容が違います。クラス配布のシラバスを参照してください。	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第3回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第4回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第5回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第6回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第7回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第8回		Review (Class 1-7)	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第9回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第10回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第11回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第12回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第13回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第14回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第15回		Wrap up	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
テキスト	Keynote 3 (American English edition), センゲージラーニング社		
参考書			
成績の評価方法	中間、期末試験 各25%、授業内アクティビティ25%、ホームワーク25%		
その他	国際化する社会に生きる医療従事者として必要になる基本的な英語表現を学び、相手や場面に合わせ		

て適切に使い分けできる英語力とコミュニケーションスキルを身につけていきます。またグループワークを通じて、建設的な意見交換のスキルと、チームワークスキルを上達させましょう。

科目名	英語ⅡB【保健2】	科目名(英語)	英語ⅡB
区分	外国語科目	単位数	1.0
担当責任者	安田尚子		
開講年次	2	教室	ICT教室他
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>様々なトピックスを通して、英語の語彙や表現について学びながら英語の4技能を習得し、医療人、また国際社会の一員として英語で情報伝達ができるよう、プレゼンテーションスキル等を習得する。またグループワークでの課題を通して地域の外国人居住者に医療情報を提供するために必要な英語表現を正しく選択し、使えるproductive skills (speaking &amp; writing)の習得を目指す。この授業は4学科合同で、同一時間帯に3クラス編成で行われる。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な英単語や表現を正しく発音し、その意味が理解できる。</li> <li>2. 様々なジャンルの英文を理解することができる。</li> <li>3. 学術英語にふさわしい語彙、文法、文章構成を理解することができる。</li> <li>4. 地域に必要な医療情報を英語で提供することができる。</li> <li>5. 視覚情報や映像を用いて情報を英語で表現することができる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		Introduction	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第2回		教員ごと違います。各クラスでシラバス配布いたします。	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第3回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第4回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第5回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第6回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第7回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第8回		Review (Class 1-7)	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第9回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第10回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第11回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第12回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第13回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第14回		Writing and speaking activities	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
第15回		Wrap up	安田尚子、久保田恵佑、金井典子
テキスト	Keynote 3 (American English edition), センゲージラーニング社		
参考書			
成績の評価方法	中間、期末試験 各25%、授業内アクティビティ25%、ホームワーク25%		
その他	国際化する社会に生きる医療従事者として必要になる基本的な英語表現を学び、相手や場面に合わせ		

て適切に使い分けできる英語力とコミュニケーションスキルを身につけていきます。またグループワークを通じて、建設的な意見交換のスキルと、チームワークスキルを上達させましょう。

科目名	病理学総論【保健2】	科目名(英語)	病理学総論
区分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	宇月美和		
開講年次	2	教室	講義室 1
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>病理学は疾病の原因・本質を解明する学問であり、疾病を理解する上で基礎となる科目である。疾病に関する医療用語の意味と定義、疾病を起こす原因、疾病に伴う人体の機能的および形態的变化を科学的に理解し、説明できるレベルの知識を身につける。また疾病による組織の形態的变化を理解するとともに、各種疾病の本態を理解するには解剖、生理、生化、細菌等の基礎的知識が必要であり、これらの内容を総合的に組み合わせることによって疾病の背景を理解することができる。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な疾患の分類とそれに含まれる疾患の概念・定義を理論的に確実に説明できる。</li> <li>2. 疾患あるいは病的現象に関して、適切な医学用語を使用し説明できる。</li> <li>3. 主要な疾患の成因や、疾患によってもたらされる臓器の形態的・機能的変化を正常状態と比較し説明できる。</li> <li>4. 疾患の大きなカテゴリーと臓器の組み合わせによって、個別の疾患を系統的に理解する。</li> <li>5. 病理検査の内容について説明できる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4/13 1限	病理学概論 病態の概念、病因の理解、臨床医学への応用	宇月美和(臨床検査学科)
第2回	4/20 1限	退行性病変 萎縮、変性、壊死、沈着症	同上
第3回	4/27 1限	代謝異常 蛋白、アミノ産、脂質、糖質代謝異常	同上
第4回	5/11 1限	循環障害 局所の循環不全(充血、うっ血、水腫、虚血)、全身の循環不全(貧血、ショック)	同上
第5回	5/18 1限	進行性病変 細胞増殖と再生、生理的化生と病的化生、肥大と過形成、創傷治癒	同上
第6回	5/25 1限	炎症(1) 炎症の原因、生体反応、治癒	同上
第7回	6/1 1限	炎症(2) 炎症の種類と組織反応、器質化	同上
第8回	6/8 1限	免疫(1) 免疫応答、免疫担当細胞、液性免疫と細胞性免疫	同上
第9回	6/15 1限	免疫(2) アレルギーの機序と種類、自己免疫疾患、免疫不全	同上
第10回	6/22 1限	感染症(1) 感染発症と生体反応、宿主病因	同上
第11回	6/29 1限	感染症(2) 原因(ウイルス、細菌、真菌、原虫)、特異性炎(結核他)の肉芽腫と肉芽組織、院内感染	同上
第12回	7/6 1限	腫瘍(1) 腫瘍の形態 発育、悪性度、発生要因、宿主要因、前癌病変と前癌状態、異型性と異形成	同上
第13回	7/13 1限	腫瘍(2) 腫瘍の疫学、分類(良性、悪性、上皮性、非上皮性)	同上
第14回	7/20 1限	先天異常と新生児・小児疾患 奇形、遺伝子・染色体異常、小児疾患	同上
第15回	7/27 1限	老化のメカニズム、臓器・組織・細胞の変化	同上
テキスト	わかりやすい病理学 (南江堂)		
参考書	よくわかる病理学の基本としくみ(秀和システム)		
成績の評価方法	定期試験80%、小テスト20%		
その他			

科目名	人間発達学【保健2】	科目名(英語)	人間発達学
区分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	倉澤茂樹		
開講年次	2	教室	講義室
必修/選択	必修(理学, 作業)	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
人は生涯にわたり発達する。人にはライフステージに応じた発達学的課題がある。人の健康を支援する医療専門職において、人間発達を学ぶことは対象者を理解する上で不可欠である。発達は、体の成長などの生物学的な側面だけでなく、社会性やパーソナリティなど様々な視点で理解する必要がある。本科目では、各発達段階における発達の特徴について、姿勢反射や反応、感覚・知覚・認知及び社会性の視点から学び、発達と遊びとの関係についても理解を深める。			
学習目標			
1) 主要な発達理論について説明することができる。 2) 各発達段階における発達の特徴を示すことができる。 3) 人間の発達を支援するために必要なことがわかる。 4) 関連する書籍や文献などを主体的に調べることができる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4/12 Ⅲ限	人間発達とは ・なぜ、人間発達を学ぶのか ・発達とは ・発達の要因	倉澤茂樹(作業療法学科)
第2回	4/19 Ⅲ限	発達理論① エリクソンの発達理論	倉澤茂樹(作業療法学科)
第3回	4/26 Ⅲ限	発達理論② ピアジェの発達理論	倉澤茂樹(作業療法学科)
第4回	5/10 Ⅲ限	発達(姿勢反射/反応) 原始反射、姿勢反射/反応とは	楠本泰士(理学療法学科)
第5回	5/17 Ⅲ限	発達(姿勢反射/反応) 0ヶ月～8ヶ月まで	楠本泰士(理学療法学科)
第6回	5/24 Ⅲ限	発達(姿勢反射/反応) 9ヶ月～6歳まで	楠本泰士(理学療法学科)
第7回	5/31 Ⅲ限	運動発達 寝返りから歩行まで	楠本泰士(理学療法学科)
第8回	6/7 Ⅲ限	上肢機能の発達	倉澤茂樹(作業療法学科)
第9回	6/14 Ⅲ限	感覚、知覚の発達	倉澤茂樹(作業療法学科)
第10回	6/21 Ⅲ限	認知の発達	倉澤茂樹(作業療法学科)
第11回	6/28 Ⅲ限	社会性の発達	倉澤茂樹(作業療法学科)
第12回	7/5 Ⅲ限	日常生活動作の発達	倉澤茂樹(作業療法学科)
第13回	7/12 Ⅲ限	発達と遊び	倉澤茂樹(作業療法学科)
第14回	7/19 Ⅲ限	人間発達と発達障害(脳性麻痺)	倉澤茂樹(作業療法学科)
第15回	7/28 Ⅲ限	人間発達と発達障害(注意欠陥多動性障害、学習障害、発達性協調運動障害、自閉症スペクトラム症)	倉澤茂樹(作業療法学科)
テキスト	辛島千恵子編著「人間発達とライフサイクル」理工図書株式会社 2019年		
参考書	上杉雅之監修「イラストでわかる人間発達学」医歯薬出版株式会社		
成績の評価方法	定期試験100%		





科目名	運動学演習【保健2】		科目名(英語)	運動学演習
区分	人体の構造と機能及び心身の発達		単位数	1.0
担当責任者	神先秀人			
開講年次	2	教室	運動学実習室、理学療法評価室・運動療法室	
必修/選択	理学：必修、作業：選択		授業形態	演習
受講要件	無し			
授業の概要				
運動学で学んだ知識を利用して姿勢や動作の具体的な観察・分析方法、および機器を用いた定量的な運動機能や動作の評価方法を学ぶ。臨床で理学療法・作業療法の対象となる疾患を想定した課題をグループで演習し、結果を考察することで理解を深める。				
学習目標				
1) 観察や種々の機器を用いた形態・関節運動、姿勢、筋力、バランス機能の評価方法を説明し、実施することができる。 2) 歩行の速度因子の測定、ビデオを用いた動作分析の評価方法を説明し、実施することができる。 3) 筋電図や三次元動作解析装置、床反力計を用いた動作分析の基本的な評価方法を説明することができる。 4) 測定結果をまとめ、考察を加えて発表することができる。				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回	4.15:IV	授業概要・実習課題の説明 レポートの書き方		神先
第2回	4.15:V	下肢の形態と関節運動の観察と評価		神先
第3回	4.22:IV	下肢の形態と関節運動の観察と評価		神先
第4回	4.22:V	下肢の形態と関節運動の観察と評価		神先
第5回	5.6:IV	上肢の形態と関節運動の観察と評価		中野渡
第6回	5.6:V	上肢の形態と関節運動の観察と評価		中野渡
第7回	5.13:IV	上肢の形態と関節運動の観察と評価		中野渡
第8回	5.13:V	体幹の形態と関節運動の観察と評価		遠藤
第9回	5.20:IV	体幹の形態と関節運動の観察と評価		遠藤
第10回	5.20:V	体幹の形態と関節運動の観察と評価		遠藤
第11回	5.27:IV	重心・姿勢評価・静止バランス評価		神先・中野渡・遠藤
第12回	5.27:V	重心・姿勢評価・静止バランス評価		神先・中野渡・遠藤
第13回	6.3:IV	重心・姿勢評価・静止バランス評価		神先・中野渡・遠藤
第14回	6.3:V	筋力測定		神先・中野渡・遠藤
第15回	6.10:IV	筋力測定		神先・中野渡・遠藤
第16回	6.10:V	筋力測定		神先・中野渡・遠藤
第17回	6.17:IV	筋活動計測		神先・中野渡・遠藤
第18回	6.17:V	筋活動計測		神先・中野渡・遠藤
第19回	6.24:IV	筋活動計測		神先・中野渡・遠藤
第20回	6.24:V	歩行速度測定		神先・中野渡・遠藤

第21回	7.1:IV	歩行速度測定	神先・中野渡・遠藤
第22回	7.1:V	歩行速度測定	神先・中野渡・遠藤
第23回	7.8:IV	ビデオを用いた動作分析	神先・中野渡・遠藤
第24回	7.8:V	ビデオを用いた動作分析	神先・中野渡・遠藤
第25回	7.15:IV	ビデオを用いた動作分析	神先・中野渡・遠藤
第26回	7.15:V	動作解析装置を用いた分析	神先・中野渡・遠藤
第27回	7.22:IV	動作解析装置を用いた分析	神先・中野渡・遠藤
第28回	7.22:V	動作解析装置を用いた分析	神先・中野渡・遠藤
第29回	7.29:IV	課題発表	神先・中野渡・遠藤
第30回	7.29:V	課題発表	神先・中野渡・遠藤
テキスト	理学療法・作業療法テキスト 運動学実習（石川朗、種村留美編集；中山書店）		
参考書	月城慶一・他訳：観察による歩行分析，医学書院		
成績の評価方法	定期試験50%、レポート40%、発表10%		
その他			

科目名	免疫学【保健2】	科目名(英語)	免疫学
区分	専門科目	単位数	1.0
担当責任者	鈴木英明		
開講年次	2	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>臨床で活躍する医療人として必要な生体防御機構について学習する。生体は常に細菌やウイルスなどの外敵から身を守る必要がある。この外敵から身を守るために、白血球を中心とする様々な細胞は相互に助成し合いコミュニケーションを取りながらチームプレイで作業している。この生命維持に重要な生体防御反応のメカニズムに関与する胸腺などの免疫を担当する免疫器官、白血球を中心とした免疫担当細胞、体液内の免疫を担う蛋白成分である抗体や補体、それらを活性化あるいは制御する際に分泌されるサイトカインについて、その特徴や機能について学ぶ。</p>			
学習目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・免疫担当細胞間の相互作用について理解する。</li> <li>・抗原・抗体・補体の特徴と機能について理解する。</li> <li>・自然免疫および獲得免疫の機序とその特徴について理解する。</li> </ul>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4/14 8:40-9:40	免疫の歴史	鈴木英明(臨床検査学科)
第2回	4/21 8:40-9:40	生体防御反応の概要	鈴木英明(臨床検査学科)
第3回	5/12 8:40-9:40	抗原 種類と特徴	鈴木英明(臨床検査学科)
第4回	5/12 9:50-10:50	抗体 構造と抗原認識	鈴木英明(臨床検査学科)
第5回	5/19 8:40-9:40	免疫担当細胞 顆粒球の種類と働き	鈴木英明(臨床検査学科)
第6回	5/26 8:40-9:40	免疫担当細胞 リンパ球の種類と働き	鈴木英明(臨床検査学科)
第7回	6/2 8:40-9:40	免疫担当細胞 ファゴサイト	鈴木英明(臨床検査学科)
第8回	6/2 9:50-10:50	自然免疫	鈴木英明(臨床検査学科)
第9回	6/16 8:40-9:40	炎症	鈴木英明(臨床検査学科)
第10回	6/16 9:50-10:50	獲得免疫 抗原提示	鈴木英明(臨床検査学科)
第11回	6/30 8:40-9:40	獲得免疫 体液性免疫	鈴木英明(臨床検査学科)
第12回	7/7 8:40-9:40	獲得免疫 細胞性免疫	鈴木英明(臨床検査学科)
第13回	7/14 8:40-9:40	補体	鈴木英明(臨床検査学科)
第14回	7/14 8:40-9:40	免疫寛容	鈴木英明(臨床検査学科)
第15回	7/28 8:40-9:40	総括	鈴木英明(臨床検査学科)
テキスト	シンプル免疫学(南江堂)		
参考書	臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版) 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 MEDIC MEDIA		
成績の評価方法	定期試験(100%)		
その他	目に見えない生体防御反応は免疫学特有の表現があり戸惑うかもしれません。しかし、感染症、自己		

免疫疾患、腫瘍、アレルギーや免疫不全など様々な疾患に関連する基礎知識となりますので積極的な姿勢で臨んでください。

科目名	医用工学実験【保健2】	科目名(英語)	医用工学実験
区分	専門基礎	単位数	1.0
担当責任者	久保 均(診療放射線科学科)		
開講年次	2	教室	
必修/選択	必修:診療放射線科学科、臨床検査学科 選択:理学療法学科、作業療法学科	授業形態	実験
受講要件			
授業の概要			
<p>現在の高度化された医療機器には、様々な電気・電子回路が使われている。それら機器を正しく使用するためには、原理や仕組みに関する基本をしっかりと理解しておく必要がある。本実験では、医用工学の講義で学んだ電気・電子工学に関する基礎知識を、実験を行うことで体得する。具体的には、電子回路基礎実験、アナログ回路実験、半導体回路実験、デジタル技術実験、パルス回路実験、AD/DA変換実験を行う。また、センサー付き二足歩行ロボットの製作とプログラミングを行うことで、センサーの働きを体感すると共にその応用法を実践する。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電気・電子デバイスの特性を理解し体得する。</li> <li>2. 電気・電子回路の構成と動作原理を理解し体得する。</li> <li>3. センサー技術の応用法を体得し実践する。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	5/16 5限	実験ガイダンス	久保 均
第2回	5/16 6限	オシロスコープ操作説明	鈴木 健司
第3回	5/16 7限	E-Station使用説明	久保 均
第4回	5/23 5限	電子回路基礎実験	山口 克彦
第5回	5/23 6限	電子回路基礎実験	山口 克彦
第6回	5/23 7限	電子回路基礎実験	山口 克彦
第7回	5/30 5限	アナログ回路実験	西山 篤
第8回	5/30 6限	アナログ回路実験	西山 篤
第9回	5/30 7限	アナログ回路実験	西山 篤
第10回	6/6 5限	半導体回路実験	田中 明
第11回	6/6 6限	半導体回路実験	田中 明
第12回	6/6 7限	半導体回路実験	田中 明
第13回	6/13 5限	デジタル技術実験	山田 昭博
第14回	6/13 6限	デジタル技術実験	山田 昭博
第15回	6/13 7限	デジタル技術実験	山田 昭博
第16回	6/20 5限	パルス回路実験	鈴木 健司
第17回	6/20 6限	パルス回路実験	鈴木 健司
第18回	6/20 7限	パルス回路実験	鈴木 健司
第19回	6/27 5限	AD/DA変換実験	久保 均
第20回	6/27 6限	AD/DA変換実験	久保 均
第21回	6/27 7限	AD/DA変換実験	久保 均

第22回	7/4 5限	ロボット製作ガイダンス	久保 均
第23回	7/4 6限	ロボット組み立て・回路調整	山口 克彦、西山篤、田中 明、山田 昭博、鈴木健司、久保 均
第24回	7/4 7限	ロボット組み立て・回路調整	山口 克彦、西山篤、田中 明、山田 昭博、鈴木健司、久保 均
第25回	7/11 5限	回路調整・コントロール法の習得	山口 克彦、西山篤、田中 明、山田 昭博、鈴木健司、久保 均
第26回	7/11 6限	回路調整・コントロール法の習得	山口 克彦、西山篤、田中 明、山田 昭博、鈴木健司、久保 均
第27回	7/11 7限	回路調整・コントロール法の習得	山口 克彦、西山篤、田中 明、山田 昭博、鈴木健司、久保 均
第28回	7/25 5限	最終調整	山口 克彦、西山篤、田中 明、山田 昭博、鈴木健司、久保 均
第29回	7/25 6限	製作ロボット動作発表会	山口 克彦、西山篤、田中 明、山田 昭博、鈴木健司、久保 均
第30回	7/25 7限	製作ロボット動作発表会	山口 克彦、西山篤、田中 明、山田 昭博、鈴木健司、久保 均
テキスト	実験手引き書		
参考書			
成績の評価方法	レポート（100%）		
その他			

科目名	薬理学【保健2】	科目名(英語)	薬理学
区分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	下村健寿(病態制御薬理医学講座)		
開講年次	2	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>薬理学は、薬物と生体の相互作用を探究する学問である。薬の作用を理解するためには、細胞内外の情報伝達の仕組みや、病気が発症することで情報伝達がどのような破綻をきたすのかを知る必要がある。そして薬物の理解とは、病気の原因となる異常に対し薬物がどのように作用するのかを理解する学問である。本講義では、薬物の作用機序を理解するために、その基礎的事項を学び、さらに細胞内外情報伝達物質と薬物との相互作用を理解し、薬物の臨床展開と治療効果について学ぶ。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療専門職として基本的な薬の知識を身に着ける。</li> <li>2. 薬理作用を通じ、生命現象の根幹をなす分子機構の理解を行う。</li> <li>3. 薬理学の概要について説明できる。</li> <li>4. 薬の分類、作用機序と副作用における概要を説明できること。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4月14日	薬物とは何か、薬理作用と作用機序、作用と投与量の関係、薬と法律、処方	下村健寿(病態制御薬理医学講座)
第2回	4月21日	薬の生体内運搬、薬物の吸収・分布・代謝・排泄	西嶋剣一(先端臨床研究センター)
第3回	4月28日	薬物動態学、薬物相互作用、薬物治療に影響を与える因子	西嶋剣一(先端臨床研究センター)
第4回	5月12日	個別化医療、薬物送達システム、薬物の開発	西嶋剣一(先端臨床研究センター)
第5回	5月19日	副交感神経系に作用する薬物	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第6回	5月26日	交感神経系に作用する薬物、筋弛緩薬、局所麻酔薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第7回	6月2日	全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第8回	6月9日	抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗認知症薬、麻薬性鎮痛薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第9回	6月16日	狭心症治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、降圧薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第10回	6月23日	利尿薬、脂質異常症治療薬、血液・造血管系作用薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第11回	6月30日	内分泌・代謝作用薬、治療薬としてのビタミン、消化器作用薬	下村健寿(病態制御薬理医学講座)
第12回	7月7日	非ステロイド抗炎症薬、ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第13回	7月14日	抗アレルギー薬、免疫抑制薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第14回	7月21日	抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、消毒薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
第15回	7月28日	抗腫瘍薬、分子標的治療薬	尾形浩(病態制御薬理医学講座)
テキスト	シンプル薬理学 南江堂 野村隆英・石川直久(編) 2014年		
参考書	NEW薬理学 南江堂 田中千賀子・加藤隆一・成宮周(編) 2017年		
成績の評価方法	定期試験80%、小テスト20%		
その他	薬理学は、生体と化学物質(薬)との相互作用を学ぶ。その理解のためには化学および生理学・病理		

学などの知識が必須である。基盤となる知識を身に付け、さらに薬理学の理解を促進してほしい。



科目名	リハビリテーション医学【保健2】		科目名(英語)	リハビリテーション医学
区分	専門基礎		単位数	1.0
担当責任者	矢吹省司			
開講年次	2	教室		
必修/選択	必修	授業形態	講義	
受講要件	無し			
授業の概要				
リハビリテーション医学の全体像や医学・医療における位置づけを理解し、リハビリテーション医学の理念、診断、および治療の基礎知識の習得を目指す。内容としては、医学的リハビリテーションの対象となる運動障害や感覚障害、循環機能障害、呼吸機能障害、摂食嚥下障害、排尿障害、高次脳機能障害について、また、小児疾患や精神疾患の症候や病態生理等を学習し、各種障害のリハビリテーション治療の基礎知識を習得する。さらに、リハビリテーション工学や地域リハビリテーションについて学び、リハビリテーション医学の理解を深める。				
学習目標				
1) リハビリテーション医学の位置づけと特質を説明できる。 2) 医学的リハビリテーションの代表的障害について、主な症候・所見、検査法の概略を説明できる。 3) 医学的リハビリテーションの代表的障害について、リハビリテーション治療の概略を説明できる。				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員	
第1回	4月14日 7限目	リハビリテーション医学総論 病気別のリハビリテーション	大井直往 (医学部リハビリテーション医学講座)	
第2回	4月21日 7限目	リハビリテーション診断、評価	同上	
第3回	4月28日 7限目	廃用症候群のリハビリテーション	矢吹省司 (理学療法学科)	
第4回	5月12日 7限目	運動機能障害のリハビリテーション	同上	
第5回	5月19日 7限目	神経障害のリハビリテーション	大井直往 (医学部リハビリテーション医学講座)	
第6回	5月26日 7限目	循環機能障害のリハビリテーション	義久精臣 (臨床検査学科)	
第7回	6月2日 7限目	呼吸機能障害のリハビリテーション	高橋仁美 (理学療法学科)	
第8回	6月9日 7限目	摂食嚥下障害のリハビリテーション	小川洋 (会津医療センター耳鼻咽喉科)	
第9回	6月16日 7限目	排尿障害のリハビリテーション	吉田美香子 (東北大学)	
第10回	7月14日 7限目	高次脳機能障害のリハビリテーション	林博史 (作業療法学科)	
第11回	6月30日 7限目	小児疾患のリハビリテーション	松尾洋平 (福島県総合療育センター)	
第12回	7月7日 7限目	精神疾患のリハビリテーション	林博史 (作業療法学科)	
第13回	6月23日 7限目	リハビリテーション工学、治療機器、ロボット	安永好宏 (サイバーダイナミクス株式会社)	
第14回	7月21日	地域包括ケアシステム、地域リハビリテーション、介護予防	葛西龍樹	

回	7 限目		(地域・家庭医療学講座)
第15回	7月28日 7 限目	社会参加、QOL向上のリハビリテーション	大井直往 (医学部リハビリテーション医学講座)
テキスト	中村隆一、監修 入門 リハビリテーション医学 第3版 医歯薬出版、2009		
参考書	無し		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	各講義に必要な資料は、講義の際に配布します。		

科目名	整形外科学【保健2】	科目名(英語)	整形外科学
区分	専門基礎	単位数	2.0
担当責任者	矢吹省司		
開講年次	2	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件	無し		
授業の概要			
理学療法士、作業療法士に必要な骨関節疾患・脊髄と末梢神経の疾患や外傷に関する基礎知識を理解する。具体的には股関節・膝関節・足関節・肩関節・肘関節・手関節・脊椎の主たる疾患について学ぶ。授業は講義を主体とするが、一部演習を行う。			
学習目標			
1. 筋骨格系の構造と機能を理解できる。 2. 筋骨格系に起因する運動障害・機能障害を理解できる。 3. 身体各部位または疾患別の筋骨格系障害・外傷を理解し、リハビリテーション診断、リハビリテーション治療との関連を理解できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4月14日 2限目	整形外科疾患とQOL	矢吹省司 (理学療法学科)
第2回	4月21日 2限目	関節・脊椎の構造と機能	同上
第3回	4月28日 2限目	四肢と脊椎の診察	同上
第4回	4月28日 1限目	脊椎・脊髄損傷	二階堂琢也 (整形外科学講座)
第5回	6月2日 1限目	骨・関節の外傷(上肢)	川上亮一 (整形外科学講座)
第6回	10月20日 2限目	骨・関節の外傷(下肢)	吉田勝浩 (整形外科学講座)
第7回	6月9日 1限目	骨・軟部腫瘍(I) 良性腫瘍	箱崎道之 (整形外科学講座)
第8回	6月9日 2限目	骨・軟部腫瘍(II) 悪性腫瘍	同上
第9回	6月23日 1限目	脊椎・脊髄疾患(I) 頸椎・胸椎	渡辺和之 (整形外科学講座)
第10回	6月23日 2限目	脊椎・脊髄疾患(II) 腰椎・骨盤	小林洋 (整形外科学講座)
第11回	6月30日 2限目	感染性骨関節疾患	沼崎広法 (整形外科学講座)
第12回	7月7日 2限目	関節リウマチ	佐藤弘一郎 (南東北福島病院)
第13回	7月21日 1限目	骨粗鬆症・代謝性疾患(I) 総論と診断	山田仁 (整形外科学講座)
第14回	7月21日	骨粗鬆症・代謝性疾患(II)	竹中信之

回	2限目	治療	(総合南東北病院)
第15回	7月28日 2限目	足・足関節疾患 (I) 機能解剖、内反足、扁平足、外反母趾	大内一夫 (整形外科学講座)
第16回	10月13日 2限目	足・足関節疾患 (II) 変形性足関節症、Morton病、無腐性壊死	同上
第17回	9月29日 2限目	股関節疾患 (I) 機能解剖、成人股関節疾患の診断	山岸栄紀 (整形外科学講座)
第18回	10月6日 2限目	股関節疾患 (II) 治療	同上
第19回	10月27日 2限目	膝関節疾患 (I) 機能解剖、半月板・靭帯損傷	吉田勝浩 (整形外科学講座)
第20回	11月10日 2限目	膝関節疾患 (II) 変形性膝関節症、炎症性疾患	小平俊介 (整形外科学講座)
第21回	11月10日 4限目	肩関節疾患	猪狩貴弘 (整形外科学講座)
第22回	11月17日 4限目	肘関節疾患	同上
第23回	11月17日 2限目	手・手関節疾患 (I) 機能解剖、骨壊死、変形性手関節症	佐々木信幸 (整形外科学講座)
第24回	12月15日 2限目	手・手関節疾患 (II) 先天異常、末梢神経障害	同上
第25回	1月24日 2限目	スポーツ傷害 (I) スポーツ外傷とスポーツ障害の診断	加賀孝弘 (総合南東北病院)
第26回	1月24日 3限目	スポーツ傷害 (II) スポーツ外傷とスポーツ障害の治療	同上
第27回	12月1日 1限目	小児整形外科 (I) 先天性疾患	松尾洋平 (総合療育センター)
第28回	12月1日 2限目	小児整形外科 (II) ベルテス病、脳性麻痺	同上
第29回	1月19日 2限目	フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア (I) 病態・診断	矢吹省司 (理学療法学科)
第30回	1月26日 2限目	フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア (II) 治療・予防	同上
テキスト	『標準整形外科学』、中村利孝、松野丈夫 (監修)、医学書院、2016		
参考書	参考になる図書は講義の中で紹介します。		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	各講義に必要な資料は、講義の際に配布します。		

科目名	内科学【保健2】	科目名(英語)	内科学
区 分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	小川一英(臨床検査学科)		
開講年次	2	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要なとなる内科疾患の症候や診断、及び治療に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、内科学と内科的診断・治療、症候学、循環器疾患や呼吸器疾患、消化管疾患、肝胆膵疾患、血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌疾患、腎・泌尿器疾患、免疫系疾患、アレルギー疾患、そして感染症などに関する成因と症状、及び診断や検査法、治療等を学び、内科疾患に関する医療について理解を深める。</p>			
学習目標			
<p>1) 内科疾患の基本的な症候、診断、および治療について理解する。  2) 呼吸器・循環器・消化器・内分泌等の代表的な疾患について理解する。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4月8日 (金) 4限	内科学とは 内科的診断と治療	小川一英(臨床検査学科)
第2回	4月12日 (火) 2限	症候学 発熱、全身倦怠感、食欲不振・食思不振、悪心・嘔吐	小川一英(臨床検査学科)
第3回	4月19日 (火) 2限	症候学 意識障害、めまい、浮腫・むくみ、レイノー現象、頭痛、ショック	小川一英(臨床検査学科)
第4回	4月22日 (金) 1限	循環器疾患の症候、診断法	義久精臣(臨床検査学科)
第5回	4月22日 (金) 2限	循環器疾患各論	義久精臣(臨床検査学科)
第6回	5月24日 (火) 2限	呼吸器疾患の症候、診断法	柴田陽光(医学部呼吸器内科学講座)
第7回	5月31日 (火) 2限	呼吸器疾患各論	柴田陽光(医学部呼吸器内科学講座)
第8回	6月7日 (火) 2限	消化管疾患	鬼澤道夫(医学部消化器内科学講座)
第9回	6月14日 (火) 2限	肝胆膵疾患	高木忠之(医学部消化器内科学講座)
第10回	6月21日 (火) 2限	血液・造血器疾患	小川一英(臨床検査学科)
第11回	6月28日 (火) 2限	代謝性疾患	島袋充生(医学部糖尿病内分泌代謝内科学講座)
第12回	7月5日 (火) 2限	内分泌疾患	島袋充生(医学部糖尿病内分泌代謝内科学講座)
第13回	7月12日 (火) 2限	腎疾患	風間順一郎(医学部腎臓高血圧内科学講座)
第14回	7月19日	免疫系疾患、アレルギー性疾患	浅野智之(医学部)

回	(火) 2限		リウマチ膠原病内科学講座)
第15回	7月26日 (火) 2限	感染症	豊川真弘 (臨床検査学科)
テキスト	奈良 勲、鎌倉矩子 監修 内科学第3班 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野医学書院 2014		
参考書	なし (配布資料)		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他			

科目名	精神医学【保健2】	科目名(英語)	精神医学
区分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	林 博史		
開講年次	2	教室	講義室1
必修/選択	必修(理学療法学科、作業療法学科)	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要な精神疾患と医療、リハビリテーションおよび精神障害者福祉に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、統合失調症やうつ病、不安障害、パーソナリティ障害、アルコール性関連精神障害、発達障害、認知症などの各種疾患の成因と症状、および診断等に関して学び、精神障害に対する薬物療法やリハビリテーション、心理療法、さらには精神保健福祉や精神障害者の社会復帰を含めた精神医学・医療について理解を深める。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神障害の症状、検査、診断、疾患分類について説明できる。</li> <li>2) 精神医学に関する各種疾患や障害の概念、疫学、成因、症状、診断について説明できる。</li> <li>3) 治療薬物の種類と作用機序について説明できる。</li> <li>4) 精神科医療の歴史的背景や社会制度、精神障害の治療と臨床心理学の関わりについて説明できる。</li> <li>5) 精神障害者の社会復帰やリハビリテーションと精神保健福祉のかかわりについて説明できる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4/13(水) II	精神障害とその症状、診断法、国際分類	林 博史(作業療法学科)
第2回	4/20(水) II	統合失調症 I	林 博史(作業療法学科)
第3回	4/27(水) II	統合失調症 II	林 博史(作業療法学科)
第4回	5/11(水) II	うつ病、双極性障害	林 博史(作業療法学科)
第5回	5/18(水) II	不安症、解離症、身体症状症、強迫症	林 博史(作業療法学科)
第6回	5/25(水) II	パーソナリティ障害、性別違和、発達障害	林 博史(作業療法学科)
第7回	6/1(水) II	PTSD、摂食障害、睡眠障害	林 博史(作業療法学科)
第8回	6/8(水) II	物質関連障害および嗜癖性障害	林 博史(作業療法学科)
第9回	6/15(水) II	精神疾患の原因となる医学疾患および薬物	林 博史(作業療法学科)
第10回	6/22(水) II	認知症 I	林 博史(作業療法学科)
第11回	6/29(水) II	認知症 II	林 博史(作業療法学科)
第12回	7/6(水) II	向精神薬の種類と作用機序	林 博史(作業療法学科)
第13回	7/13(水) II	精神障害のリハビリテーションと関連法	林 博史(作業療法学科)
第14回	7/20(水) II	臨床心理学と精神障害の関わり、心理検査、精神療法	林 博史(作業療法学科)
第15回	7/27(水) II	予備・まとめ	林 博史(作業療法学科)
テキスト	上野武治編 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学第4版 医学書院		
参考書	尾崎紀夫他 編 標準精神医学 第8版 医学書院 西丸四方、西丸甫夫 やさしい精神医学 南山堂		

	大熊輝夫著 第12版改定委員会 現代臨床精神医学 金原出版
成績の評価方法	定期試験100%
その他	



科目名	脳・神経内科学【保健2】	科目名(英語)	脳・神経内科学
区 分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	林 博史		
開講年次	2	教室	講義室1
必修/選択	必修(理学療法学科, 作業療法学科)	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要な脳・神経疾患に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、神経症候学の概要、脳血管障害や脳外傷、アルツハイマー病をはじめとした認知症、髄膜炎、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多系統萎縮症、ギランバレー症候群、重症筋無力症、多発性硬化症、てんかん等の各神経系疾患の成因と症状、及び診断や検査法、治療等を学び、脳・神経内科疾患に関する医療について理解を深める。</p>			
学習目標			
<p>1) 代表的な脳・神経内科疾患の原因、症状、治療が説明できる。  2) 神経学的診断法および補助診断法の概要が説明できること。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4/15(金) VI	神経症候学(意識障害、高次脳機能障害、脳神経障害の診方)	金井数明(医学部 脳神経内科学講 座)
第2回	4/22(金) VI	神経症候学(脳神経障害、感覚障害、自律神経障害の診方)	山本達也(千葉県 立保健医療大学 リハビリテーシ ョン学科作業療法 学専攻)
第3回	5/6(金) VI	画像診断、電気生理学的検査、生検、自律神経機能検査	金井数明(医学部 脳神経内科学講 座) / 山本達也 (千葉県立保健医 療大学 リハビリ テーション学科作 業療法学専攻)
第4回	5/11(水) III	脳血管の解剖と生理、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血	岩楯兼尚(医学部 脳神経外科学講 座)
第5回	5/18(水) III	脳外傷、脳腫瘍	藤井正純(医学部 脳神経外科学講 座)
第6回	5/27(金) VI	Alzheimer病、Pick病、脳血管性認知症	林 博史(作業療 法学科)
第7回	6/3(金) VI	髄膜炎・脳炎の症候、髄液所見、プリオン病、後天性免疫不全症候群(AIDS)	井口正寛(医学部 脳神経内科学講 座)
第8回	6/10(金) VI	Parkinson病、Parkinson症候群	山本達也(千葉県 立保健医療大学 リハビリテーシ ョン学科作業療法 学専攻)
第9回	6/17(金) VI	筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多系統萎縮症(MSA)、遺伝性脊髄小脳萎縮症(SCA)	金井数明(医学部 脳神経内科学講 座)
第10回	6/24(金) VI	Guillain-Barre症候群、慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー、遺伝性ニューロパチー	金井数明(医学部 脳神経内科学講 座)
第11回	7/1(金) VI	筋炎、筋ジストロフィー、代謝性ミオパチー	金井数明(医学部 脳神経内科学講

			座)
第12回	7/8 (金) VI	重症筋無力症、Lambert-Eaton筋無力症候群	山本達也 (千葉県立保健医療大学リハビリテーション学科作業療法学専攻)
第13回	7/15 (金) VI	多発性硬化症、視神経脊髄炎、急性散在性脳脊髄炎、白質ジストロフィー	藤原一男 (医学部脳神経内科学講座)
第14回	7/22 (金) VI	てんかん、非てんかん性けいれん、頭痛、中枢性めまい、末梢性めまい	林博史 (作業療学科)
第15回	7/29 (金) VI	先天性/後天性代謝異常、中毒による神経障害	松田希 (医学部脳神経内科学講座)
テキスト	・川平和美編 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「神経内科学」第5版 医学書院		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田崎義昭 他 ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版 南山堂</li> <li>・平山恵造 臨床神経内科学 第5版 南山堂</li> <li>・豊倉康夫 神経内科学書 第2版 朝倉書店</li> </ul>		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他			

科目名	老年学【保健2】	科目名(英語)	老年学
区 分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	林博史		
開講年次	2	教室	講義室1
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件	なし		
授業の概要			
<p>理学療法士、作業療法士に必要な知識である加齢や老化現象について、医学、生物学、心理学、社会学など広い視点から理解する。内容として、生涯発達の一部としての老化を捉え、それに伴う生理機能、運動機能、精神機能について学修する。特徴的な老年期の疾病や障害として、嚥下障害、誤嚥性肺炎、循環障害、フレイル、サルコペニア、骨粗しょう症、骨折、認知症、うつ、せん妄などの老年期症候群についても教授する。高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の心理についても学び、老年期にある対象者の理解を深められるようにする。</p>			
学習目標			
<p>1) 老化の概念や高齢者の定義、人口動態を説明できる。  2) 老年期における生理機能、運動機能、精神機能面の変化と疾患・障害との関連を説明できる。  3) 高齢者の薬物療法を説明できる。  4) サクセスフルエイジングを説明できる。  5) 高齢者を取り巻く環境を説明できる。  6) 高齢者の状態に即したリハビリテーションについて説明できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	9/26(月) VII	オリエンテーション、老年学とは、疫学、老年学の課題(老化、老人問題)	林博史(作業療法学科)
第2回	10/3(月) IV	老化と生涯発達(エリクソン、マズロー) パーソナリティと適応	岩佐一(医学部公衆衛生学講座)
第3回	10/17(月) IV	老化に伴う変化(生理機能)	林博史(作業療法学科)
第4回	10/24(月) IV	老化に伴う変化(運動機能)	横塚美恵子(理学療法学科)
第5回	10/31(月) IV	老化に伴う変化(精神機能)	林博史(作業療法学科)
第6回	11/7(月) IV	老年期の疾病と障害(嚥下障害、誤嚥性肺炎)	菅野和広(附属リハビリテーションセンター)
第7回	11/14(月) IV	老年期の疾病と障害(循環器疾患)	義久精臣(臨床検査学科)
第8回	11/21(月) IV	老年期の疾病と障害(フレイル、サルコペニア、骨粗しょう症、骨折)	矢吹省司(理学療法学科)
第9回	11/28(月) IV	老年期の疾病と疾患(認知症、うつ、せん妄)	林博史(作業療法学科)
第10回	12/5(月) IV	高齢者の薬物療法(ポリファーマシーなどの問題等)	石井重亮(附属薬剤部)
第11回	12/12(月) IV	高齢者の機能、活動面の評価	川又寛徳(作業療法学科)
第12回	12/19(月) IV	老化の社会学と理論(老人観、エイジズム、活動理論、離脱理論、継続理論等)	岩佐一(医学部公衆衛生学講座)
第13回	1/16(月) IV	家族・社会関係(ソーシャルサポート、ネットワーク)	佐藤伸哉(附属医療連携相談室)
第14回	1/23(月) IV	幸福感、生きがい、サクセスフルエイジング	岩佐一(医学部公衆衛生学講座)
第15回	1/30(月) IV	老年期のリハビリテーション、終末期医療	横塚美恵子(理学療法学科)
テキスト	大内 尉(編) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野「老年学」第5版 医学書院		

参考書	特になし 配布資料を参照
成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	小児科学【保健2】	科目名(英語)	小児科学
区分	専門基礎科目	単位数	1.0
担当責任者	林 博史		
開講年次	2	教室	講義室1
必修/選択	必修(理学療法学科、作業療法学科)	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>本科目は、理学療法士や作業療法士の臨床実践に必要な小児疾患に関する基礎知識の習得を目指す。内容としては、小児の発達と保健、新生児医療、各小児疾患(先天異常、脳性麻痺、てんかん、循環器疾患、呼吸器疾患、感染症、内分泌・泌尿器疾患、血液疾患、腫瘍性疾患、免疫疾患、アレルギー性疾患、自閉症、注意欠如多動性障害、学習障害等)の成因と症状、および診断や検査法、治療等を学び、小児疾患に関する医療と子どもの療育について理解を深める。</p>			
学習目標			
<p>1) 小児期の正常発達の概略を説明することができる。  2) 新生児に関する医学的知識を身につけ、周産期の異常について説明することができる。  3) 各年代での代表的な小児疾患を挙げ、典型的な臨床症状や、診断と治療の基礎について説明することができる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	4/8(金) Ⅲ	小児の成長発育と発達、小児の保健	細矢光亮(医学部小児科学講座)
第2回	4/22(金) Ⅲ	小児に特有な一般的身体所見と症候	細矢光亮(医学部小児科学講座)
第3回	5/10(火) Ⅰ	新生児の評価、未熟児の神経学的所見、周産期の異常症状	佐藤真紀(附属総合周産期母子医療センター)
第4回	5/17(火) Ⅰ	先天異常、染色体異常、遺伝性疾患	郷勇人(附属総合周産期母子医療センター)
第5回	5/20(金) Ⅲ	小児に特有な神経症候、神経学的検査法	鈴木雄一(医学部小児科学講座)
第6回	5/24(火) Ⅰ	脳性麻痺の成因と徴候による分類、治療、療育	松尾洋平(福島県総合療育センター)
第7回	5/31(火) Ⅰ	てんかん、熱性けいれん	林博史(作業療法学科)
第8回	6/7(火) Ⅰ	循環器疾患	桃井伸緒(附属総合周産期母子医療センター)
第9回	6/14(火) Ⅰ	呼吸器疾患	橋本浩一(医学部小児科学講座)
第10回	6/24(金) Ⅲ	感染症	佐藤晶論(医学部小児科学講座)
第11回	6/28(火) Ⅰ	内分泌・泌尿器疾患	陶山和秀(医学部小児科学講座)
第12回	7/5(火) Ⅰ	血液疾患、腫瘍性疾患	望月一弘(附属小児腫瘍内科)
第13回	7/12(火) Ⅰ	免疫、アレルギー疾患	橋本浩一(医学部小児科学講座)
第14回	7/19(火) Ⅰ	自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害	林博史(作業療法学科)
第15回	7/26(火) Ⅰ	集中治療	齋藤康(医学部小児科学講座)
テキスト	富田豊 標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「小児科学」 第5版 医学書院		

参考書	鴨下重彦 ベッドサイドの小児神経・発達のかた 改訂第3版 南山堂 森下昭廣 他 標準小児科学 第6版 医学書院
成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	リハビリテーション栄養学【保健2】	科目名(英語)	リハビリテーション栄養学
区分	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	単位数	1.0
担当責任者	神先秀人		
開講年次	2	教室	
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
リハビリテーションにおける運動機能の回復には、その基礎となる良好な栄養状態が重要である。本科目では理学療法や作業療法に必要な栄養学基礎知識、評価方法および栄養療法について教授する。			
学習目標			
1) リハビリテーションにおける栄養の重要性について説明できる。 2) 栄養の基礎知識を説明できる。 3) リハビリテーション栄養に必要な評価手段を説明できる。 4) リハビリテーション栄養の治療手段を説明できる。 5) 主要なリハビリテーション対象疾患の栄養管理を説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	R4.9.29(木):Ⅲ	リハビリテーションと栄養の関係(フレイル・サルコペニア含む)	田村佳奈美
第2回	R4.10.6(木):Ⅲ	栄養の基礎知識1 栄養素とその働き	同上
第3回	R4.10.13(木):Ⅲ	栄養の基礎知識2 栄養補給ルートと食事の種類	同上
第4回	R4.10.20(木):Ⅲ	栄養の基礎知識3 消化と吸収	同上
第5回	R4.10.27(木):Ⅲ	栄養評価1 栄養評価項目と栄養評価方法 模擬事例栄養評価	同上
第6回	R4.11.10(木):Ⅲ	栄養評価2 身体計測の実際 栄養フィジカルアセスメント	同上
第7回	R4.11.17(木):Ⅲ	栄養評価3 高齢者の栄養アセスメント 模擬事例栄養評価	同上
第8回	R4.11.24(木):Ⅲ	リハビリテーション栄養プラン 必要栄養量の算出方法 模擬事例栄養プラン	同上
第9回	R4.12.1(木):Ⅲ	栄養サポートチーム 栄養サポートチームの役割と 各職種での役割	同上
第10回	R4.12.8(木):Ⅲ	主な疾患とリハビリテーション栄養1:脳卒中 「模擬事例検討」	同上
第11回	R4.12.15(木):Ⅲ	主な疾患とリハビリテーション栄養2:大腿骨近位部骨折 「模擬事例検討」	同上
第12回	R4.12.22(木):Ⅲ	主な疾患とリハビリテーション栄養3:がん 「模擬事例検討」	同上
第13回	R5.1.12(木):Ⅲ	主な疾患とリハビリテーション栄養4:褥瘡 「模擬事例検討」	同上
第14回	R5.1.19(木):Ⅲ	主な疾患とリハビリテーション栄養5:摂食嚥下障害	同上

回	Ⅲ	「模擬事例検討」	
第15回	R5.1.26(木):	主な疾患とリハビリテーション栄養6：慢性心不全	同上
	Ⅲ	「模擬事例検討」	
テキスト	栢下淳、若林秀隆編著：リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎第2版 医歯薬出版		
参考書			
成績の評価方法	筆記試験100%		
その他			



科目名	放射線医学概論【保健2】	科目名(英語)	放射線医学概論
区分		単位数	1.0
担当責任者	佐藤久志(診療放射線科学科)		
開講年次	2	教室	講義室
必修/選択	必修:診療放射線科学科、臨床検査学 科、選択:理学療法学科、作業療法学科	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
医療における放射線の役割は、ますます重要となっており、疾病の診断や腫瘍に対する治療においてなくてはならないものとなっている。そこで、本科目では放射線の基礎的な特性とその利用の実際を学び、診療において活用できるような基礎知識を得る。人体の解剖学的な構造とその画像診断を学び、また、各画像モダリティの特性を学び、疾病に現れる画像変化を効率的に検出できるように学習する。また治療で使用する放射線治療の特性や、治療方法についても学習する。			
学習目標			
1. 医療で用いる放射線の基礎と利用法を知る。 2. 画像診断法について知る。 3. MRI、核医学について知る。 4. 放射線治療について知る。 5. 最新の放射線医学について知る。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		医療で用いる放射線の種類、放射線物理学の基礎、放射線計測の基礎 α線、β線、γ線、X線、粒子線	福田篤志(診療放射線科学科)
第2回		放射線生物学の基礎	佐藤久志(診療放射線科学科)
第3回		種々の画像診断装置 単純写真、断層写真、CT	久保均(診療放射線科学科)
第4回		医療情報システムとその安全管理 MRI、PACS、DICOM、画像サーバー	久保均(診療放射線科学科)
第5回		放射線障害、医療被ばく、法的規制 自然被ばく、医療被ばく、福島県での放射線災害、RI規制法	(診療放射線科学科)
第6回		中枢、頭頸部、胸部の画像診断正常解剖画像、疾病で得られる画像所見	佐藤久志(診療放射線科学科)
第7回		腹部、骨盤、四肢の画像診断正常解剖画像、疾病で得られる画像所見	佐藤久志(診療放射線科学科)
第8回		核医学の基礎、放射性同位元素、核医学診断装置、ガンマカメラを使用する核医学診断 ガリウムシンチ、骨シンチ、心筋シンチ、甲状腺シンチ、腎シンチ、挿入血流シンチ、脳血流シンチ、出血シンチ、アシアロシンチ、MIBGシンチ、唾液腺シンチ、センチネルリンパ節シンチ	三輪建太(診療放射線科学科)
第9回		PETによる画像診断 FDG-PET、15Oガス、11Cメチオニン、13Nアンモニア	三輪建太(診療放射線科学科)
第10回		核医学内用療法 131I内服、89Sr内用療法、223Ra内用療法、90Yゼバリン療法	佐藤久志(診療放射線科学科)
第11回		放射線治療の基礎、放射線治療の種類と装置・方法、温熱療法 放射線生物学、分割照射、治療機器、治療方法、照射適応、温熱療法	佐藤久志(診療放射線科学科)
第12回		中枢、頭頸部、胸部の放射線治療 神経膠腫、上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌、喉頭癌、甲状腺癌、肺癌、乳癌、縦隔腫瘍	佐藤久志(診療放射線科学科)
第13回		腹部、骨盤、四肢の放射線治療、放射線治療におけるペイシエント・ケア 消化器癌、骨盤内癌、軟部肉腫、姑息照射、治療患者の心身のサポート、有害事象に対するケア	佐藤久志(診療放射線科学科)
第14回		最新の放射線治療 サイバーナイフ、トモセラピー、定位放射線治療、IMRT、VMAT、粒子線治療	加藤貴弘(診療放射線科学科)

		療、BNCT	
第15 回		最新の放射線医療 PET-MRI、新しい核医学の治療開発	久保均（診療放射 線科学科）
テキスト	なし		
参考書	なし		
成績の評価方法	レポート100%		
その他	なし		

科目名	危機管理学【保健2】		科目名(英語)	危機管理学
区分	専門基礎		単位数	1.0
担当責任者	小川一英			
開講年次	2	教室	多目的ホール	
必修/選択	必修		授業形態	講義
受講要件				
授業の概要				
<p>前半は、身の回りにおける様々な危機の種類、組織ガバナンスや医療安全を例にしてリスクマネジメントについての基本的な考え方を学習する。また患者と医療者の間で意見の食い違いから生じる紛争に対する解決法としての医療メディエーションの役割についても学ぶ。後半は、福島の地で起きた大規模複合災害を始め世界で起きた様々な災害について知り、必要な医療、福祉、保健などに対する医療者の役割と各種連携の実際について学習する。また災害が人々に与えるメンタルヘルスや、社会、地域住民とのリスクコミュニケーション、さらに日本、海外における災害時の危機管理体制や医療の役割について学ぶ。</p>				
学習目標				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 危機の種類について説明できる。</li> <li>2. 組織における内部統制について理解し、リスク管理について説明できる。</li> <li>3. 医療安全について危機管理の点から説明できる。</li> <li>4. 災害におけるリスクコミュニケーション、メンタルヘルスについて説明できる。</li> <li>5. トリアージについて理解し、様々な災害と医療の役割について説明できる。</li> <li>6. 自然災害に対する国際協力の現状について理解できる。</li> </ol>				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回	4月11日5限	オリエンテーション・危機管理学総論		三村邦裕(千葉科学大学)、小川一英(臨床検査学科)
第2回	4月11日6限	危機管理とリスクマネジメント		三村邦裕
第3回	4月11日7限	組織における危機管理・内部統制		木村栄宏(千葉科学大学)
第4回	4月18日5限	リスクへの対応(ケーススタディ)		木村栄宏
第5回	4月18日6限	メディエーション・医療ADR・リスクガバナンス		木村栄宏
第6回	4月18日7限	自然災害の発生メカニズム		藤本一雄(千葉科学大学)
第7回	4月25日5限	自然災害のハザード・リスク評価		藤本一雄
第8回	4月25日6限	自然災害対策について		藤本一雄
第9回	4月25日7限	東日本大震災と福島第一原発事故における危機管理		大葉 隆(診療放射線科学科)
第10回	5月2日5限	医療安全と危機管理(ヒューマンエラー)		種田憲一郎(国立保健医療科学院)
第11回	5月2日6限	医療安全と危機管理(リスクマネジメント)		種田憲一郎
第12回	5月2日7限	放射線災害における医療者の役割		長谷川有史(医学部放射線災害医療学講座)
第13回	5月9日5限	災害と危機介入		前田正治(医学部災害こころの医学講座)
第14回	5月9日6限	災害医療とトリアージ		佐藤千歳(岡崎市保健所)
第15回	5月9日7限	自然災害に対する国際協力		佐藤千歳
テキスト	特に指定しない			
参考書	1. 林 春男他 組織の危機管理入門ーリスクにどう立ち向えばいいのか			

	(京大人気講義シリーズ) 丸善出版？ 2. 藤岡 達也：絵でわかる日本列島の地震・噴火・異常気象 (KS絵でわかるシリーズ)、講談社 3. 鈴木 康弘：防災・減災につなげる ハザードマップの活かし方 単行本 (ソフトカバー)、岩波書店
成績の評価方法	定期試験100% (筆記試験 100%)
その他	

科目名	医療統計学【保健2】	科目名(英語)	医療統計学
区分	自然科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	柴田恭子		
開講年次	2	教室	講義室 1
必修/選択	4学科必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>医療データの分析において統計的に適切に判断できる素養を身に付けることを目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいデータ解析を行うために必要な医療統計学の基礎理論を学びます。</li> <li>・各検定法の特徴やその基本的な考え方を理解し、それらの手法を適切に用いるための統計的な考え方を身に付けます。</li> </ul>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 適切な検定方法を選ぶことができる。</li> <li>2. 多重性の問題について説明ができる。</li> <li>3. 比較群のリスクの違いを考慮して解析を行うことができる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		記述統計量 仮説検定 疫学研究のデザイン	柴田恭子
第2回		統計テストの選び方 スチューデントのT検定 マンホイットニーのU検定	柴田恭子
第3回		対応のあるT検定とウィルコクソンの符号付順位和検定 分散分析、クラスカルワリス検定、フリードマン検定	柴田恭子
第4回		線形回帰と相関係数 リスク比、レート比、オッズ比とロジスティック回帰	柴田恭子
第5回		感度・特異度・ROC図	柴田恭子
第6回		生存率解析：カプランマイヤー図、ハザード比とコックス回帰 研究に必要な症例数の計算	柴田恭子
第7回		多変量回帰モデル	柴田恭子
第8回		線形回帰モデルの仮定	柴田恭子
第9回		多変量回帰モデルにおける交絡の調整	柴田恭子
第10回		一元配置の分散分析 二元配置の分散分析	柴田恭子
第11回		オッズ比とロジスティック回帰	柴田恭子
第12回		ロジスティックス回帰における交絡	柴田恭子
第13回		ケーススタディ	柴田恭子
第14回		傾向スコアの意味と使い方	柴田恭子
第15回		試験対策・要点整理	柴田恭子
テキスト	「みんなの医療統計 12日間で基礎理論とEZRを完全マスター！」新谷歩 講談社 「みんなの医療統計 多変量解析編 10日間で基礎理論とEZRを完全マスター！」新谷歩 講談社		
参考書	必要に応じ、プリントを配布します。		
成績の評価方法	試験の得点【55%】、平常点(演習課題の提出)【45%】により総合的に行う。		

その他	<p>(1) 演習課題の提出により出席確認を行います。</p> <p>(2) 下記のいずれかの項目に該当する場合は、定期試験および再試験の受験は認めません。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・特別な事由なく6回以上欠席した場合</li><li>・毎回の課題演習などで代筆・カンニング等、不正行為が認められた場合</li><li>・途中退室、私語が多いなど授業態度が悪い場合</li></ul>
-----	--

科目名	理学療法評価学 I 【保健 2】	科目名 (英語)	理学療法評価学 I
区 分	理学療法評価学	単位数	2.0
担当責任者	柴喜崇		
開講年次	2	教室	理学療法評価室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
理学療法の対象疾患・障害に共通的に必要な基本的検査・測定である形態計測、関節可動域測定、関節動揺性検査などの目的と意義を学修する。基本的検査・測定技術の習得に、講義と演習を行う。			
学習目標			
1. 理学療法の評価と位置づけと役割を説明できる。 2. 身体計測、関節可動域検査、関節動揺性検査などを、健常者を対象に正確に実施できる。 3. 上記の検査の正常値と異常値の意味を説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容 (キーワード等)	担当教員
第1~2回	4月13日 (水曜日) IV、V	理学療法の評価の位置づけと役割 体表解剖学、骨指標の触診	柴喜崇
第3~4回	4月13日 (水曜日) VI、VII	身体計測 (身長、体重、BMI、体脂肪率)	同上
第5~6回	4月20日 (水曜日) IV、V	身体計測 (四肢長)	柴・星 真行
第7~8回	4月20日 (水曜日) VI、VII	身体計測 (周径)	同上
第9~10回	4月27日 (水曜日) IV、V	関節可動域測定 (総論)	同上
第11~12回	4月27日 (水曜日) VI、VII	関節可動域測定 (上肢：肩関節、肘関節)	同上
第13~14回	5月11日 (水曜日) IV、V	関節可動域測定 (上肢：前腕、手指)	同上
第15~16回	5月11日 (水曜日) VI、VII	関節可動域測定 (下肢：股関節)	同上
第17~18回	5月18日 (水曜日) IV、V	関節可動域測定 (下肢：膝関節、足関節)	同上
第19~20回	5月18日 (水曜日) VI、VII	関節可動域測定 (頸部、体幹)	同上
第21~22回	5月25日 (水曜日) IV、V	筋長検査 (2関節筋について) 上肢	同上
第23~24回	5月25日 (水曜日) VI、VII	筋長検査 (2関節筋について) 下肢	同上
第25~26回	6月1日 (水曜日) IV、V	関節動揺性検査 上肢・下肢	同上

第27~ 28回	6月1日(水 曜日) VI, VII	柔軟性検査	同上
第29~ 30回	6月8日(水 曜日) VI, VII	【習熟度確認】	同上
テキスト	理学療法評価学(第6版補訂版) 松澤正・他著(金原出版) 図解 四肢と脊椎の診かた(第1版) 野島元雄・他著(医歯薬出版)		
参考書	図解 理学療法検査・測定ガイド(第2版) 奈良勲・他編著(文光堂) 骨格筋の形と触診法(改訂第2版) 河上敬介・他編著(大峰閣) 触診解剖アトラス(第3版) Tixa S. (医学書院) 基礎運動学(第6版補訂) 中村隆一・他著(医歯薬出版)		
成績の評価方法	筆記試験40%、実技試験40%、課題レポート10%、発表10%		
その他	随時、小テスト、習熟度確認テスト等を実施する。 測定および評価の意義・位置づけと構成要素を説明できること。		



科目名	理学療法評価学Ⅱ【保健2】	科目名(英語)	理学療法評価学Ⅱ
区分	理学療法評価学	単位数	2.0
担当責任者	柴喜崇		
開講年次	2	教室	理学療法評価室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
理学療法の対象疾患・障害に共通に必要なである基本的検査・測定である徒手筋力検査、神経学的検査などの目的と意義を学修する。基本的検査・測定技術の習得に、講義と演習を行う。			
学習目標			
1. 徒手筋力検査を実施するために、必要なオリエンテーション、肢位の選択、正確な技術、適切な評価判定を実施できる。 2. 神経学的検査などを、健常者を対象に正確に実施できる。 3. 上記の検査の正常値と異常値の意味を説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回	6月8日(水曜日) Ⅵ, Ⅶ	コース紹介・理学療法評価学とは【総論】 徒手筋力検査① 肩甲帯(拳上下制筋)	柴喜崇・阿部浩明
第3~4回	6月15日(水曜日) Ⅳ, Ⅴ	徒手筋力検査② 肩甲帯(内外転筋) 徒手筋力検査③ 肩甲帯(上下方回旋筋)	同上
第5~6回	6月15日(水曜日) Ⅵ, Ⅶ	徒手筋力検査④ 肩関節(屈伸筋) 徒手筋力検査⑤ 肩関節(内外転・外旋)	同上
第7~8回	6月22日(水曜日) Ⅳ, Ⅴ	徒手筋力検査⑥ 肘関節 徒手筋力検査⑦ 前腕	同上
第9~10回	6月22日(水曜日) Ⅵ, Ⅶ	徒手筋力検査⑧ 手関節 徒手筋力検査⑨ 手指	同上
第11~12回	6月29日(水曜日) Ⅳ, Ⅴ	徒手筋力検査⑩ 股関節(屈伸筋) 徒手筋力検査⑪ 股関節(内外転筋)	同上
第13~14回	6月29日(水曜日) Ⅵ, Ⅶ	徒手筋力検査⑫ 膝関節(伸筋) 徒手筋力検査⑬ 膝関節(屈筋)	同上
第15~16回	7月6日(水曜日) Ⅳ, Ⅴ	徒手筋力検査⑭ 足関節(腹側) 徒手筋力検査⑮	同上

		足関節（背側）	
第17~ 18回	7月6日（水曜日） VI, VII	徒手筋力検査⑩ 頸部 徒手筋力検査⑪ 体幹	同上
第19~ 20回	7月13日 （水曜日） IV, V	神経学的検査【総論】 感覚検査① 腱反射（上肢）	柴 喜崇
第21~ 22回	7月13日 （水曜日） VI, VII	感覚検査② 腱反射（下肢） 感覚検査③ 病的反射	同上
第23~ 24回	7月20日 （水曜日） IV, V	協調性検査 片麻痺回復段階検査 （上肢・手指）	同上
第25~ 26回	7月20日 （水曜日） VI, VII	片麻痺回復段階検査 （下肢） 平衡機能検査（座位・立位）	同上
第27~ 28回	7月27日 （水曜日） IV, V	復習と習熟度確認 （徒手筋力検査：上肢） 復習と習熟度確認 （徒手筋力検査：下肢）	柴 喜崇・阿部 浩明
第29~ 30回	7月27日 （水曜日） VI, VII	復習と習熟度確認 （徒手筋力検査：体幹） 復習と習熟度確認 （神経学的検査など）	同上
テキスト	理学療法評価学（第6版補訂版） 松澤正・他著（金原出版） 新・徒手筋力検査法（第10版）Avers D., Brown M.（協同医書出版社） 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ（第3版） 鈴木則宏・他著（メディカルビュー社）		
参考書	なし		
成績の評価方法	筆記試験40%、実技試験40%、課題レポート10%、発表10%		
その他	随時、小テスト、習熟度確認テスト等を実施する。 運動器理学療法をはじめ、神経障害理学療法などに用いられる徒手筋力検査方法や感覚検査、反射検査などの意義と目的、構成要素など解剖学、生理学や運動学など基礎医学知識をから説明できること、測定技術や技能を獲得すること。		

科目名	理学療法評価学演習【保健2】	科目名(英語)	理学療法評価学演習
区分	理学療法評価学	単位数	2.0
担当責任者	柴 喜崇		
開講年次	2	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
理学療法評価学ⅠおよびⅡの学修をもとに、これらを実践的に活用し、模擬症例を通して統合的に検査・測定を実施し、結果を解釈し問題点を把握する力を修得するための演習を行う。			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 理学療法評価課程と臨床推論について説明できる。</li> <li>2. 模擬症例に即した評価計画を立てることができる。</li> <li>3. 模擬症例に即した検査・測定を、健常者を対象に統合的に実施できる。</li> <li>4. 模擬症例の問題点を把握できる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1~2回		コース紹介【ガイダンス】 理学療法評価課程と臨床推論 情報収集と評価計画	柴
第3~4回		理学療法評価課程と臨床推論 問題点と統合解釈	同上
第5~6回		模擬症例1筋骨格障害 グループ学習 情報収集と評価計画	柴・星真行・高橋恵理
第7~8回		模擬症例1 筋骨格障害 評価実施(実技練習)	同上
第9~10回		模擬症例1 筋骨格障害 評価実施(実技練習)	同上
第11~12回		模擬症例1 筋骨格障害 問題点と統合解釈	同上
第13~14回		模擬症例2 脳血管障害 グループ学習 情報収集と評価計画	柴・阿部浩明
第15~16回		模擬症例2 脳血管障害 評価実施(実技練習)	同上
第17~18回		模擬症例2 脳血管障害 評価実施(実技練習)	同上
第19~20回		模擬症例2 脳血管障害 統合と解釈	同上
第21~22回		模擬症例3 地域在住高齢者 グループ学習 情報収集と評価計画	柴・森下慎一郎・佐藤聡見
第23~24回		模擬症例3 地域在住高齢者 評価実施(実技練習)	同上
第25~26回		模擬症例3 地域在住高齢者 評価実施(実技練習)	同上
第27~28回		模擬症例3 地域在住高齢者 統合と解釈	同上
第29~30回		まとめ	柴
テキスト	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(第2版) 才藤栄一監修(金原出版)		
参考書	脳卒中の機能評価-SIASとFIM [基礎編] 千野直一・他編著(金原出版) 運動療法エビデンスレビュー 松永篤彦・他(編集)(文光堂)		

成績の評価方法	筆記試験40%、実技試験40%、課題レポート10%、発表10%
その他	理学療法評価学 I と II で学習したことを、模擬患者を通して知識と技術の確認作業を行います。臨床現場での実習と同等に緊張感をもって取り組んでください。

科目名	運動療法学【保健2】	科目名(英語)	運動療法学
区 分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	高橋仁美		
開講年次	2	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
運動療法は理学療法の中心的治療手段であり、骨関節疾患をはじめ多くの疾患・障害に適応されている。理学療法の重要な分野となっている。本科目では運動療法の基本的治療手段について教授する。			
学習目標			
1) 関節可動域制限に対する運動療法について説明できる。 2) 関節可動域制限の原因に応じた治療手段を選択できる。 3) 筋力低下に対する運動療法について説明できる。 4) 持久力低下に対する運動療法について説明できる。 5) バランス障害に対する運動療法について説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	9.28(水)Ⅱ	運動療法の基本概念	高橋仁美
第2回	9.28(水)Ⅲ	リラクゼーション	同上
第3回	10.5(水)Ⅱ	関節可動域運動	同上
第4回	10.5(水)Ⅲ	関節可動域運動	同上
第5回	10.12(水)Ⅱ	ストレッチング	同上
第6回	10.12(水)Ⅲ	ストレッチング	同上
第7回	10.19(水)Ⅱ	ストレッチング	同上
第8回	10.19(水)Ⅲ	関節モビライゼーション	同上
第9回	10.26(水)Ⅱ	関節モビライゼーション	同上
第10回	10.26(水)Ⅲ	筋カトレーニング	同上
第11回	11.2(水)Ⅱ	筋カトレーニング	同上
第12回	11.2(水)Ⅲ	筋カトレーニング	同上
第13回	11.9(水)Ⅱ	姿勢と支持性	同上
第14回	11.9(水)Ⅲ	バランストレーニング	同上
第15回	11.6(水)Ⅱ	協調性トレーニング	同上
テキスト	Cross Link 理学療法テキスト 運動療法 メジカルビュー社		
参考書	授業中に紹介します。		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	何事も基礎が重要です。医学英語に親しんでください。将来役立ちます。		

科目名	運動療法学演習【保健2】	科目名(英語)	運動療法学演習
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	高橋仁美		
開講年次	2	教室	運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件			
授業の概要			
運動療法は理学療法の中心的治療手段であり、骨関節疾患をはじめ多くの疾患・障害に適応されている。理学療法の重要な分野となっている。本科目では運動療法学の学修に基づき、基本的治療手段が実施できるよう演習する。			
学習目標			
1) 関節可動域制限運動が実施できる。 2) 主要な筋に対するストレッチングが実施できる。 3) 基本的な関節モビライゼーションが実施できる。 4) 基本的な筋力トレーニングが実施できる。 4) 持久力低下に対する基本的運動療法が実施できる。 5) 姿勢・バランス障害に対する基本的運動療法が実施できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	11.6(水)Ⅲ	リラクゼーションと関節可動域運動	高橋仁美・中野渡達哉
第2回	11.30(水)Ⅱ	関節可動域運動	同上
第3回	11.30(水)Ⅲ	ストレッチング	同上
第4回	12.7(水)Ⅱ	ストレッチング	同上
第5回	12.7(水)Ⅲ	ストレッチング	同上
第6回	12.14(水)Ⅱ	関節モビライゼーション	同上
第7回	12.14(水)Ⅲ	関節モビライゼーション	同上
第8回	12.21(水)Ⅱ	関節モビライゼーション	同上
第9回	12.21(水)Ⅲ	筋力トレーニング	同上
第10回	1.11(水)Ⅱ	筋力トレーニング	同上
第11回	1.11(水)Ⅲ	筋力トレーニング	同上
第12回	1.18(水)Ⅱ	持久力トレーニング	同上
第13回	1.18(水)Ⅲ	バランストレーニング	同上
第14回	1.25(水)Ⅱ	姿勢とコアスタビリティ	同上
第15回	1.25(水)Ⅲ	協調性運動	同上
テキスト	Cross Link 理学療法テキスト 運動療法 メジカルビュー社		
参考書	授業中に紹介します。		
成績の評価方法	実技試験100%		
その他	実技練習ができる準備をして参加すること。		

科目名	物理療法学【保健2】	科目名(英語)	物理療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	横塚美恵子		
開講年次	2	教室	物理療法実習室
必修/選択	必須	授業形態	講義
受講要件	無し		
授業の概要			
種々の物理療法の原理、生理的作用、適応、禁忌、基本的な実施方法について学修する。			
学習目標			
1. 種々の物理療法に必要な原理、生理的反応について理解できる。 2. 各物理療法の種類、適応と効果、禁忌と注意事項を理解できる。 3. 各物理療法の基本的な実施方法を理解できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		物理療法総論 温熱療法の生理学	
第2回		温熱療法(伝導熱:ホットパック、パラフィン)	
第3回		温熱療法(エネルギー変換熱:極超短波療法)	
第4回		温熱療法(エネルギー変換熱:超音波療法)	
第5回		寒冷療法の生理学	
第6回		寒冷療法(伝導冷却、対流冷却)	
第7回		電気刺激療法の基礎	
第8回		神経筋電気刺激(運動制御)	
第9回		経皮的電気神経刺激(鎮痛)	
第10回		バイオフィードバック療法	
第11回		光線療法(赤外線療法、紫外線療法)	
第12回		レーザー療法	
第13回		牽引療法	
第14回		水治療法の生理学	
第15回		水治療法(部分浴、全身浴)	
テキスト	理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー社		
参考書			
成績の評価方法	定期試験100%		
その他			

科目名	運動器障害理学療法学【保健2】	科目名(英語)	運動器障害理学療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	神先秀人		
開講年次	2	教室	講義室、理学療法評価室・運動療法室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
筋骨格系疾患に起因する運動障害は理学療法の対象の中で最も重要な分野の一つであり、これに対する理学療法について理解することを目的とする。内容としては、変形性関節症と人工関節置換術、外傷(骨折、脱臼等)、靭帯損傷と再建術、腰痛・頸部痛および脊椎疾患、関節リウマチ、末梢神経損傷、小児整形外科疾患、骨腫瘍(転移性骨腫瘍を含む)などについて学習する。			
学習目標			
① 骨関節疾患にかかる理学療法について説明できる 変形性関節症 骨折、脱臼、靭帯損傷 脊椎疾患 腰痛症 肩関節周囲炎、腱板損傷 スポーツ損傷・外傷 関節リウマチとその近縁疾患 ② 骨関節疾患にかかる理学療法について説明できる その他の骨関節疾患			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	9.27:Ⅲ	変形性関節症1(病態)	神先
第2回	10.4:Ⅲ	変形性関節症2(理学療法評価と治療)	同上
第3回	10.11:Ⅲ	骨折・脱臼1(病態)	中野渡
第4回	10.18:Ⅲ	骨折・脱臼2(理学療法評価と治療)	同上
第5回	10.25:Ⅲ	膝・足部靭帯損傷1(病態)	同上
第6回	11.1:Ⅲ	膝・足部靭帯損傷2(理学療法評価と治療)	同上
第7回	11.8:Ⅲ	脊椎疾患 病態と理学療法	小俣
第8回	11.15:Ⅲ	腰痛症1(病態)	同上
第9回	11.22:Ⅲ	腰痛症2(理学療法評価と治療)	同上
第10回	11.29:Ⅲ	肩関節周囲炎、腱板損傷1(病態)	遠藤
第11回	12.6:Ⅲ	肩関節周囲炎、腱板損傷2(理学療法評価と治療)	同上
第12回	12.13:Ⅲ	上肢のスポーツ損傷・外傷1(病態)	同上
第13回	12.20:Ⅲ	上肢のスポーツ損傷・外傷2(理学療法評価と治療)	同上
第14回	R5.1.10:Ⅲ	関節リウマチとその近縁疾患 病態と理学療法	神先
第15回	R5.1.17:Ⅲ	その他の骨関節疾患 病態と理学療法	同上
テキスト	奈良勲・監修：運動器疾患の病態と理学療法。医歯薬出版		
参考書	David J. Magee著：運動器リハビリテーションの機能評価Ⅰ 原著第4版、エルゼビア・ジャパン、2006年12月、David J. Magee・著：運動器リハビリテーションの機能評価Ⅱ 原著第4版。エルゼビア・ジャパン、2006年12月、松野丈夫：「標準整形外科学 第12版」医学書院		



成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	神経障害理学療法学【保健2】	科目名(英語)	神経障害理学療法学
区分	理学療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	柴喜崇		
開講年次	2	教室	理学療法評価室
必修/選択	必修	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
中枢神経、末梢神経に起因する神経障害の各病態について理解し、神経疾患特有の機能疾患、活動制限、参加制約に対する理学療法の評価と治療手段の概要について理解を深める。			
学習目標			
1) 中枢神経疾患・末梢神経・筋疾患が引き起こす神経障害の病態について説明できる。 2) 中枢神経疾患に必要な理学療法の評価手段と治療手段を説明できる。 3) 末梢神経・筋疾患に必要な理学療法の評価手段と治療手段を説明できる。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回	9月26日 理学療法評価室	コース紹介・神経障害理学療法学【総論】	柴
第2回	10月3日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患①急性期) 脳血管疾患	阿部浩明
第3回	10月17日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患②回復期) 脳血管疾患	同上
第4回	10月24日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患③維持期) 脳血管疾患	同上
第5回	10月31日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患④) パーキンソン病	柴
第6回	11月7日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患⑤) パーキンソン病	同上
第7回	11月14日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患⑥) 脊髄損傷	阿部浩明
第8回	11月21日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患⑦) 脊髄損傷	同上
第9回	11月28日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患⑧) 脊髄小脳変性症	柴
第10回	12月5日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患⑨) 筋萎縮性側索硬化症	同上
第11回	12月12日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患⑩) 多発性硬化症	同上
第12回	12月19日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患⑪) 頭部外傷	阿部浩明
第13回	1月16日 理学療法評価室	神経疾患理学療法各論(中枢神経疾患⑫) 高次脳機能障害	同上

第14回	1月23日・理学療法評価室	神経疾患理学療法各論（末梢神経・筋疾患①） 重症筋無力症、多発性筋炎	柴
第15回	1月30日・理学療法評価室	神経疾患理学療法各論（末梢神経・筋疾患②） 末梢神経麻痺・他	同上
テキスト	標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学(第2版) 吉尾雅春他編 医学書院 15レクチャーシリーズ神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ(第2版) 大畑光司・他編著 中山書店		
参考書	ベッドサイドの神経の診かた(第18版) 田崎義昭(編著) 南山堂 高次脳機能障害に対する理学療法 阿部浩明編著 文光堂 パーキンソン病の理学療法(第2版) 松尾善美・他編著 医歯薬出版 パーキンソン病診療ガイドライン2018 日本神経学会編 医学書院 神経診察クローズアップ-正しい病巣診断のコツ-(第3版) 鈴木則宏編著 MEDICAL VIEW社 脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドライン2018 「脊髄小脳変性症・多系統萎縮症診療ガイドライン」作成委員会 南江堂 多発性硬化症・視神経脊髄炎診療ガイドライン2017 日本神経学会監修 医学書院		
成績の評価方法	定期試験100%		
その他	シラバスに沿って授業を展開します。事前に講義内容について予め学習して臨んでください。		

科目名	日常生活動作分析援助学【保健2】		科目名(英語)	日常生活動作分析援助学
区分	理学療法治療学		単位数	1.0
担当責任者	楠本泰士			
開講年次	2	教室	日常生活活動実習室	
必修/選択	必修	授業形態	講義	
受講要件				
授業の概要				
障害によって低下した日常生活動作能力の視点から、その原因を分析して援助する方法を理解する。日常生活動作(ADL)の概念、基本的ADLと手段的ADL、セルフケア、ADLの各種評価法(BI、FIM他)、ADLの援助方法、ADL補助具、福祉用具、住環境と生活環境等について学修する。				
学習目標				
1. 日常生活動作(ADL)の概念、構成する動作、評価方法を説明できる。 2. ADLを支援するための補助具、自助具、生活環境整備を説明できる。 3. 代表的な障害像におけるADLについて、模擬体験をとおして理解する。				
授業内容(学習項目)				
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)		担当教員
第1回	9/26 5限	ADLの概念 ADLとICF、ADLとQOL		楠本泰士
第2回	9/26 6限	理学療法経過の時期別ADL評価の意義		同上
第3回	10/3 5限	ADLの基本動作分析の位置づけ		同上
第4回	10/3 6限	ADLの評価尺度 各種ADL評価		同上
第5回	10/17 5限	ADL評価の実際(BI)		同上
第6回	10/17 6限	ADL評価の実際(FIM)		同上
第7回	10/24 5限	移動補助具(杖、松葉杖、歩行器、歩行車)の種類と適応		同上
第8回	10/24 6限	車椅子の種類と構造 車椅子操作		同上
第9回	10/31 5限	シーティング		同上
第10回	10/31 6限	福祉用具の種類と機能 移動、就寝に関する福祉用具		同上
第11回	11/7 5限	排泄、入浴に関する福祉用具		同上
第12回	11/7 6限	自助具の種類と機能 食事、整容、更衣、炊事の動作を助ける自助具		同上
第13回	11/14 5限	住環境整備の意義と目的		同上
第14回	11/14 6限	基本的ADL(更衣、排泄)の活動分析を行い、個人のパターンや姿勢ごとの方法について学修する		同上
第15回	11/21 5限	基本的ADL(入浴、食事)の活動分析を行い、個人のパターンや姿勢ごとの方法について学修する		同上
テキスト	日常生活活動学テキスト(改訂第2版) 南江堂			
参考書	必要に応じて紹介します。			
成績の評価方法	定期試験100%			
その他				

科目名	地域理学療法学【保健2】	科目名(英語)	地域理学療法学
区分	地域理学療法学	単位数	2.0
担当責任者	横塚美恵子		
開講年次	2	教室	講義室
必修/選択	必須	授業形態	講義
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>地域リハビリテーションの概念とその一翼を担う理学療法の役割について学ぶ。そのために、地域リハビリテーションの歴史と定義、ノーマライゼーションについて学び、各病期における理学療法士に求められる役割を考える。また、障害者や高齢者に関する関連法規を学び、理学療法を提供している介護老人保健施設、訪問リハビリテーションにおける一連の理学療法を教授する。さらに、住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを支援する視点を広げて、地域包括ケアシステム、災害、国際支援における理学療法士の役割についても理解を深める。当科目は、地域医療及び災害医療に関連する科目である。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域リハビリテーションの定義、地域における理学療法士の役割を説明できる。</li> <li>2. 病期における保健、医療、福祉の連携について説明できる。</li> <li>3. 関連諸制度（介護保険法、障害者総合支援法）、地域包括ケアシステムについて説明できる。</li> <li>4. 介護老人保健施設や訪問における理学療法の役割を説明できる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		地域リハビリテーションの歴史 地域リハビリテーションの定義	横塚美恵子
第2回		ノーマライゼーション 各病期と理学療法士に求められる役割	横塚美恵子
第3回		各病期と他職種の役割 各病期の他職種連携による協働	横塚美恵子
第4回		関連法規(介護保険法) 関連法規(障害者総合支援法)	横塚美恵子
第5回		社会資源の活用 介護老人保健施設の役割	横塚美恵子
第6回		介護老人保健施設(入所)における理学療法士の役割 介護老人保健施設(通所)における理学療法士の役割	横塚美恵子
第7回		訪問理学療法の目的と効果 訪問理学療法における理学療法の評価	横塚美恵子
第8回		訪問理学療法における理学療法のプログラム 住宅改修に必要な知識	横塚美恵子
第9回		住宅改修の方法 福祉用具の種類	横塚美恵子
第10回		虚弱高齢者の住宅改修と福祉用具の選定を考える 片麻痺の住宅改修と福祉用具の選定を考える	横塚美恵子
第11回		車椅子使用の住宅改修と福祉用具の選定を考える 地域包括ケアシステムの目的と概要	横塚美恵子
第12回		地域包括ケアシステムに関わる他職種の役割 地域包括ケアシステムに関わる他職種と理学療法士の連携	横塚美恵子
第13回		災害時の理学療法の役割 災害時の理学療法の実際	斉藤秀之
第14回		文化や習慣を考えた国際支援における理学療法の役割 文化や習慣を考えた国際支援における理学療法の実際	桂理江子
第15回		終末期の定義と医療職に求められること	横塚美恵子

回	終末期における理学療法士の役割
テキスト	地域リハビリテーション学テキスト改訂第3版（南江堂）
参考書	
成績の評価方法	定期試験100%
その他	

科目名	臨床実習Ⅱ（理学）【保健2】	科目名（英語）	臨床実習Ⅱ（理学）
区分	臨床実習	単位数	1.0
担当責任者	遠藤康裕		
開講年次	2	教室	臨床実習施設
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
<p>「臨床実習Ⅱ」では、専任教員が附属病院や近隣病院において診療を実践することで指導に当たる。目的としては理学療法の対象疾患とその症状や障害を理解すること、理学療法の基本的な評価法の一部を実践すること、医療者としての態度や対象者への適切な接遇を学ぶことである。また、地域医療支援病院の大原総合病院、北福島医療センターでの実習を通して、福島県内の地域医療における理学療法について学ぶ。本科目は、本学部がキーワードとしている地域医療に関連する科目である。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者や家族に適切に接遇できる。</li> <li>2) 情報収集の一部が実施できる。</li> <li>3) バイタルサインを測定できる。</li> <li>4) 基本的評価手技の一部が実施できる。</li> <li>5) 正確な専門用語の使用ならびに簡潔で客観的な表現ができる。</li> </ol>			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
1日目(1時間) (1回)	オリエンテーション、実習施設配置	臨床実習担当教員 高橋仁美、神先秀人、柴喜崇、森下慎一郎、横塚美恵子、阿部浩明、楠本泰士、星真行、中野渡達哉、遠藤康裕、小俣純一、岡崎可奈子	
2-15日目(隔週3時間) (2-43回)	専任教員の診療に参加。情報収集・医療面接・評価治療の見学と補助。		
16日目(2時間) (44-45回)	専任教員の診療に参加。評価治療の見学と補助。 発表、まとめ		
テキスト	臨床実習要綱（実習の手引き）、臨床実習関係書類		
参考書	必要に応じて紹介します。		
成績の評価方法	実習報告書60%、レポート20%、ポートフォリオ20%		
その他			